

下関市豊田町の陸産・淡水産貝類

増野和幸・川野敬介

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

Terrestrial and Fresh Water Snails of Toyota, Shimonoseki, Yamaguchi Prefecture, Japan

Kazuyuki MASHINO, Keisuke KAWANO

The Firefly Museum of Toyota Town, Nakamura 50-3, Toyota, Shimonoseki, Yamaguchi Pref., 750-0441 Japan

Abstract : Records of terrestrial and fresh water snails from Toyota, Shimonoseki, Yamaguchi Prefecture, western Honshu, Japan are compiled based on the references and specimens deposited in The Firefly Museum of Toyota Town, and fieldsurvey. In total, 77 species belonging to 30 families are recorded. Of these, a total of 4 species (*Granulilimax fuscicornis* Minato, *Punctum atomus* Pilsbry & Hirase, *Trochochlamys longissima* (Pilsbry & Hirase) and *Parasitala pallida* (Pilsbry)) are recorded from Yamaguchi Prefecture for the first time.

キーワード : 陸産貝類, 淡水産貝類, 分布, 山口県

Key words : Terrestrial snails, Fresh water snails, Distribution, Yamaguchi Prefecture

はじめに

山口県下関市豊田町は、中国地方を縦断する中国山地の西端の内陸部に位置する。町の面積は約165 km²で、その大部分を森林地帯が占めている（豊田町史編纂委員会, 1979）。町の外縁を沿うように、南部に華山（標高713 m）、南西部に狗留孫山（616 m）、北西部に一位ヶ岳（671 m）と天井ヶ岳（691 m）、北東部に堂ヶ岳（588 m）などの単独峰が点在している。

陸生貝類は、日本から850種を超える種が記録され（湊, 1994）、その内山口県からは122種ほどが確認されている（山口県, 2003）。生息地の減少で絶滅が危惧される種も多く（山口県, 2003）、現状の把握が重要である。

現在の下関市は、2005年2月13日に旧下関市、菊川町、豊田町、豊浦町および豊北町の5市町が合併して県下第3位の面積に広がった。下関市の地域ごとの陸・淡水産貝類調査は、過去において旧下関市（河本, 1964; 増野, 1990b）、豊北町（藤原, 1970; 増野, 1992a; 山下・福田, 1996）および豊田町（増本ら, 2008）などで行われ報告されているが、いずれも島嶼部や海岸部、河川流域に限られたものである。そのほかの地域での調査は行われておらず、市内全域の非海産貝類の概観を知るための十分な情報があるとは言えない。そこで、第一歩の地域調査として、今回、旧豊田町地域の陸産・淡水産貝類について、標本、文献、写真の記録を基に貝類相の概要把握を試みた。本調査はおおむね2008～2016年に実施したものであるが、過去に採集された標本個体も記録として考慮した。今回の調査は、市内各地域の非海産貝類相把握の基礎資料として有効に役立つものと考えられる。

調査地および方法

文献調査および豊田ホテルの里ミュージアム収蔵標本に加え、あらたに現地調査を実施して豊田町における陸産・淡水産貝類の分布記録をまとめた。文献調査は一般に公表されている分布記録が掲載された論文や記載論文を対象とした。標本調査は豊田ホテルの里ミュージアムの収蔵標本および増野和幸個人標本を対象に行った。現地調査では目視確認した個体を直接採取するほかに、落葉下の土壌を篩にかけ、持ち帰って顕微鏡下でピンセットを用いて微小種を採取した。なお、標本の同定は基本的に増野および川野が行い、確認同定を矢野重文氏にお願いした。

標本は、豊田ホテルの里ミュージアム貝類資料として保管する。

豊田町の陸産・淡水産貝類の分布記録

本調査により得られた陸産・淡水産貝類を以下に一覧にした。種毎に【記録】、【県内分布】、【文献】、【備考】の順に示した。【記録】は本調査で確認された生息地名、日付（採集日 yyyy-mm-dd）、個体数、採集者の順に示した。生息地名は“山口県下関市豊田町”を省略し、それ以下の地名および場所を記載した。個体数は、標本として収蔵している個体数で、幼体・成体の区別はしていない。また、採集時の生死についての記録はとっていない。生死の有無などの記録をとっていないため、採集日は有要な情報ではないと思われるが、標本記録を示すために掲載した。【県内分布】は文献調査により記録のあった市町名を示した。【文献】は県内分布の根拠となった文献を示した。【備考】には形態や生態、および注目すべき特徴などについて解説した。

学名および配列は基本的には湊 宏・増田 修 (1998)「日本野生生物目録 (44), 軟体動物」を参考にしたが、陸産については、湊 宏 (1988)「日本陸産貝類総目録」、淡水産貝類については、波部忠重 (1990)「日本産非海産水棲貝類目録」も参考にした。

略号：陸産貝類：L, 淡水産貝類：F

採集者名、増野和幸：KM, 川野敬介：KK, 福留孝義：TF, 河上 勲：IK

調査結果

本調査で、生貝または死殻により陸産 19 科 59 種、淡水産 10 科 17 種を確認した。そのうち 20 種は環境省のレッドリスト (環境省, 2007; 以下環境省 RDB)、8 種はレッドデータブックやまぐち (山口県環境生活部自然保護課, 2003; 以下山口県 RDB) の掲載種であった。今回の調査で記録することが出来なかったノナメクジ (ノハラナメクジ) 科のノナメクジの記録報告 (狩野, 2001) があり、本種を加えて陸産 20 科 60 種、淡水産 10 科 17 種の合わせて 77 種が町内に生息することになる。これは過去に報告のある県内他地域、例えば旧美祢郡 (秋芳町・美東町) の 84 種 (増野, 1989d)、旧川上村の 59 種 (河上ら, 1990)、旧徳地町の 57 種 (福田, 2002) と比較しても、決して少ない種数ではない。美祢や川上地域が、一般に陸産貝が多産するとされる石灰岩地帯 (黒田・波部, 1949; 湊, 1980) であることを考えても、非石灰岩地 (徳仙ノ滝付近の小規模な石灰岩地を含む) である豊田町の今回の調査と記録は、生息の実態を十分に反映したものと考えることができる。

以下に豊田町内で記録した全 77 種の確認地および生息状況などについて記す。標本及び生態写真は図版 I-XI に示した。図版 I-VIII の写真番号は、種リストに対応している。

腹足綱 Class GASTROPODA

原始紐舌目 Order NERITIMORPHA

ゴマオカタニシ科 Family HYDROCENIDAE

1. ゴマオカタニシ *Georissa japonica* Pilsbry, 1900 L. (図版 I-1)

【記 録】徳仙ノ滝, 2007-XII-7, 1ex., KK; 2015-XII-26, 1ex., KM; 2016-V-4, 4exs., KM; 2016-V-17, 10exs., KM; 2016-V-25, 1ex., KM.

【県内分布】美祢市.

【文 献】岡藤 (1957, 1960), 増野 (1989d), 福田・増野・杉村 (1992).

【備 考】殻径 1.5 mm, 殻高 2 mm ほどの円錐形の微小種. 淡黄褐色の殻色で, 殻表に体層で 10 本ほどの深い螺旋脈をめぐらす. 県内産地は局限している. 石灰岩地の美祢市では, 好石灰岩性で螺旋脈のないベニゴマオカタニシと混生するが, 徳仙ノ滝では本種のみが生息が確認されている. 生息数は極めて少ない. 環境省 RDB では準絶滅危惧種.

新生腹足目 (中腹足目) Order CAENOGASTROPODA

ヤマタニシ科 Family CYCLOPHORIDAE

2. ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1860 L. (図 I-2a-c, X-1)

【記 録】徳仙ノ滝, 1999-V-5, 1ex., KM; 2016-VIII-31, 1ex., KM・KK; 上柰路子小原, 1999-V-5, 4exs., KM; 華山, 2005-VIII-25, 1ex., KK; 2006-II-19, 1ex., KK; 2006-VI-24, 4exs., KK; 2007-VIII-4, 5exs., KK; 2015-IX-7, 3exs., KM; 狗留孫山, 2006-IV-5, 3exs., KK; 2006-XI-27, 2exs., KK; 2016-I-7, 1ex., KM; 矢田, 2007-VIII-3, 2exs., KM; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 1ex., KM; 西市, 2016-VI-8, 2exs., KM.

【県内分布】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 周南市, 光市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 周防大島町, 岩国市.

【文 献】藤原 (1977), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1964), 河添 (1988, 1994), 増野 (1989d, 1990a, 1992a, 1993, 1994b, 1999, 2008a, 2008b, 2008d), 増野・阿部 (2001), 岡藤 (1957, 1960), 土田・藤原・金井 (1978).

【備 考】各地の落葉下に普通に生息し, 里山から山地まで生息域は広い. 殻径 20 mm, 殻高 18 mm ほどの茶褐色の円錐形の殻で, 角質の薄い蓋をもつ.

3. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus campanulatus* Martens, 1865 L. (図版 I-3a-c, X-2)

【記 録】徳仙ノ滝, 1999-V-5, 1ex., KM; 2015-XII-26, 1ex., KM; 上柰路子小原, 1999-V-5, 1ex., KM; 開作, 2007-XII-10, 1ex., KK; 華山, 2007-XII-15, 1ex., KK; 2007-VIII-3, 1ex., KK; 2015-IX-7, 3exs., KM; 2016-V-4, 2exs., KM; 中ノ川, 2007-XII-17, 6exs., KK; 2015-X-6, 1ex., KM; 稲見, 2011-XI-21, 2exs., KK; 台 (石柱溪), 2015-XI-12, 1ex., KM; 本浴上, 2015-IX-22, 3exs., KM; 西市, 2016-V-11, 2exs., KM; 2016-VI-8, 5exs., KM.

【県内分布】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 周南市, 光市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 周防大島町, 岩国市.

【文 献】藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本 (1963b, 1964), 河本・田邊 (1956), 河添 (1988, 1994), 増野 (1988a, 1989d, 2000, 2008a, 2008b), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1957, 1960), 土田・藤原・金井 (1978).

【備 考】各地の落葉下に普通に生息し, 里山から山地まで生息域は広い. 殻径 14 mm, 殻高 10 mm ほどの低い円錐形の殻で, 厚い石灰質の蓋をもつ.

4. ミジンヤマトニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900) L. (図版 I-4a-c)

【記 録】華山, 2007-XII-15, 13exs., KK; 2016-V-4, 2exs., KM; 開作, 2007-XII-10, 4exs., KK; 中ノ川, 2007-XII-17, 9exs., KK; 2010-I-18, 6exs., KK; 2015-X-6, 4exs., KM; 2016-IX-2, 3exs., KK; 豊田湖畔, 2007-XII-17, 9exs., KK; 2008-XI-16, 7exs., KK; 殿敷神上川, 2007-XII-8, 2exs., KK; 檜原, 2007-XII-8, 1ex., KK; 天井ヶ岳, 2010-I-18, 4exs., KK; 狗留孫山, 2010-II-8, 1ex., KK; 殿居, 2010-III-8, 3exs., KK; 稲見, 2011-XI-21, 11exs., KK; タケ峠, 2015-X-6, 33exs., KM; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 2exs., KM; 2016-VIII-31, 6exs., KM・KK; 勇山, 2015-IX-30, 12exs., KM; 李路子, 2016-I-7, 1ex., KM.

【県内分布】萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 平生町, 上関町, 岩国市.

【文 献】藤原 (1990), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 増野 (1989d, 2000, 2008b), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1957, 1960), 土田・藤原・金井 (1978).

【備 考】山地の落葉下に生息する. 殻径 2 mm, 殻高 1.2 mm ほどの殻で蓋もつ. ヤマトニシを著しく小さくしたような形をしている. 豊田町では普通にみられる.

5. ヤマグルマガイ *Spirostoma aponicum aponicum* (A. Adams, 1867) L. (図版 I-5a-c)

【記 録】台 (石柱溪), 1989-VII-29, 1ex., KM; 八道, 1996-VI-2, 2exs., KM; 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., KM; 上殿敷 (ホタル谷公園), 2010, 1ex., KK; 大河内, 2005-IX-20, 3exs., KK; 高熊, 2005-VIII-24, 1ex., KK; 矢田 (西宮八幡宮), 2006-III-27, 1ex., KK; 日野, 2006-IV-5, 1ex., KK; 久下, 2007-XII-26, 1ex., KK; 今出, 2007-IV-21, 1ex., KK; タケ峠, 2015-X-6, 1ex., KM; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 2exs., KM; 本浴上, 2015-IX-22, 1ex., KM; 白土, 2015-IX-30, 3exs., KM; 西市, 2016-V-11, 2exs., KM; 一ノ俣ダム湖畔, 2016-VII-20, 1ex., KM.

【県内分布】下関市, 長門市, 萩市, 美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 周南市, 光市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 周防大島町, 岩国市.

【文 献】藤原 (1977, 1990), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1964), 河添 (1988, 1994), 増野 (1989d, 2008a, 2008c, 2008d), 増野・阿部 (2000), 岡藤 (1957, 1960).

【備 考】山地の落葉下に生息する, 殻径 15 mm, 殻高 8 mm ほどの低い円盤状の殻をもつ. 蓋は角質のとんがり帽子状で珍奇である. 豊田町ではヤマトニシ, アツブタガイなどとともに普通である.

ムシオイガイ科 Family ALYCAEIDAE

6. ピルスブリムシオイガイ *Chamalycaeus pilsbryi* (Kobelt, 1902) L. (図版 I-6-c)

【記 録】李路子杉谷, 1999-V-5, 2exs., KM; 中ノ川, 2007-XII-17, 2exs., KK; 2010-VI-22, 1ex., KK.

【県内分布】萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 上関町.

【文 献】藤原 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 増野 (1989b, d, 2014), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1957, 1960).

【備 考】山地の落葉下に生息する殻径 3.5 mm, 殻高 2 mm ほどの低い円錐形をし, 殻に角質の蓋をもつ. 殻背面にうじ虫状の呼吸管をもつため, "むしおい" の名が付く. 県内に広く分布するが, 個体数は極めて少ない. ムシオイの仲間は, 山口県固有種のタダムシオイガイ *Chamalycaeus tadai* Kuroda & Kawamoto, 1956 (見島) やヤサガタイトウムシオイガイ *Chamalycaeus itonis shiotai* Minato & Yana, 1988 (萩市) を含めて数種が記録されている.

ゴマガイ科 Family DIPLOMMATINIDAE

7. キュウシュウゴマガイ *Diplommatina (Sinica) tanegashimae kyusyuensis* Pilsbry et Hirase, 1904 L. (図版 I-7)

【記 録】開作, 2007-XII-10, 7exs., KK; 華山, 2007-XII-15, 1ex., KK; 豊田湖畔, 2007-XII-17, 2exs., KK; 豊田湖東側,

2008-XI-16, 1ex., KK; 檜原, 2007-XII-8, 27exs., KK; 上殿敷 (ホテル谷公園), 2008-XI-16, 1ex., KK; 稲見, 2010-II-21, 5exs., KK; 2011-XI-21, 5exs., KK; 殿居, 2010-III-8, 1ex., KK; 八道, 2011-XII-19, 2exs., KK; 大井出, 2011-XII-3, 1ex., KK; 勇山, 2015-IX-30, 2exs., KM; 中ノ川, 2016-IX-2, 13exs., KK.

【**県内分布**】 下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 田布施町, 上関町.

【**文 献**】 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989b, 1992a, 2000, 2008a, 2008d), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1957, 1960).

【**備 考**】 山地の落葉下に生息する殻径 1.5 mm, 殻高 3 mm ほどの, 紡錘形をした右巻きの微小貝. 殻表面には細かい肋の彫刻が並ぶ. 県内各地に見られ, 豊田町内での記録は多い.

8. ヒダリマキゴマガイ *Diplommatina (Sinica) pusilla pusilla* (Martens, 1877) L. (図版 I-8)

【**記 録**】 中ノ川, 2007-XII-17, 3exs., KK; 2016-IX-2, 7exs., KK.

【**県内分布**】 萩市, 美祢市, 山口市, 岩国市.

【**文 献**】 福田・増野・杉村 (1992), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 増野 (2000), 岡藤 (1957, 1960).

【**備 考**】 山地の落葉下に生息する殻径 1 mm, 殻高 2 mm ほどの, 紡錘形をした左巻きのゴマガイの仲間. 県内での記録は少なく, 町内では中ノ川で記録したのみである. 山口県 RDB では絶滅危惧 II 類.

ヌマツボ科 Family AMNICOLIDAE

9. ホラアナミジンナ *Moria nipponica* (Mori, 1937) F. (図版 I-9a, b)

【**記 録**】 台 (石柱溪), 1989-VII-29, 2exs., KM; 浮石, 2007-II-13, 8exs., KK; 台久下, 2007-XI-2, 4exs., KK; 中ノ川, 2015-X-6, 7exs., KM.

【**県内分布**】 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市.

【**文 献**】 阿武 (1963), 福田 (1995), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 河上ら (1990), 増野 (1989d), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1960).

【**備 考**】 山地の溪流につかる小石や落葉裏に生息する, 殻径 0.8 mm, 殻高 1.5 mm ほどの紡錘形をした淡水産貝. 美祢市美東町大田にある石灰洞穴で発見 (黒田・波部, 1958) され, かつてはアキヨシホラアナミジンナ *Moria akiyoshiensis* Kuroda & Habe, 1958 と呼ばれていたが, 現在では各地に生息するホラアナミジンナのシノニム (同種異名) とされている (岡藤, 1977). 本種は肺吸虫の中間宿主であり (岡藤・初鹿, 1979), 医学分野からも注目された. 町内では 3 カ所で記録されたが, 中ノ川の個体は殻表面全体が黒色となる. この現象は, 生育過程で流水の成分または何らか環境の影響を受けて着色したと考えられる. 着色は物理的に除去できるが, 詳細は不明である. 環境省 RDB, 山口県 RDB ともに準絶滅危惧種.

タニシ科 Family VIVIPARIDAE

10. マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860) F. (図版 II-10)

【**記 録**】 一ノ俣花瀬下, 2016-VII-20, 1ex., KM; 本地吉 (豊田湖), 2002-IX-9, 2exs., KM.

【**県内分布**】 下関市, 長門市, 萩市, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市.

【**文 献**】 藤原・陶山 (1970), 藤原 (1973), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1994), 河本 (1964), 増野 (1989c, 1990a, 2008a, b), 増野・阿部 (2001), 岡藤 (1977), 多田 (1964).

【**備 考**】 水田や湿地, 水路や小川など年間を通して水の涸れない場所に生息する. 成貝は殻高 50 mm を

超える丸い円錐形の殻をもつ。近年、水田整備が進み、生息適地が減少した。かつては普通にみられたが、現在県内でも限られた場所にしかみられなくなった。町内では北部の一ノ俣や豊田湖で確認しただけである。よく似たオオタニシは周縁に弱い角があり、本種との区別は容易である。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

11. ヒメタニシ *Sinotaia quadrata histrica* (Gould, 1859) F. (図版 II-11)

【記 録】 本地吉 (豊田湖), 2002-IX-9, 3exs., KM.

【県内分布】 下関市, 萩市, 美祢市, 山口市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町.

【文 献】 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 河上ら (1990), 河添 (1994), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989b, 2008a, b).

【備 考】 水田や湿地, 池・湖沼など止水域の底泥中にすむ。市街地の水路など比較的人家付近でもみられる。殻径 20 mm, 殻高 35 mm ほどのやや細長い円錐形。町内では豊田湖で記録した。

エゾマメタニシ科 Family BITHYNIIDAE

12. ヒメマルマメタニシ *Gabbia kiusiensis* (S. Hirase, 1927) F. (図版 II-12)

【記 録】 高熊, 2016-VI-8, 5exs., KM; 一ノ俣花瀬下, 2016-VII-20, 11exs., KM; 一ノ俣伊呂里, 2016-VII-20, 6exs., KM; 本浴上, 2016-VII-20, 3exs., KM.

【県内分布】 山陽小野田市, 山口市, 柳井市, 平生町, 上関町.

【文 献】 福田 (1990, 1995), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 保坂・福田 (1996), 河添 (1994), 増野・吉崎 (2007), 増野 (2008b, d).

【備 考】 各地の水田や池沼などに生息する。殻径 4 mm, 殻高 6 mm ほどの小さなタニシの仲間。県内の分布は局所的であり, 主に湿地や干拓地の多い瀬戸内側の柳井地域や山陽小野田地域にみられる。内陸部では旧徳地町 (福田, 1990・1995; 福田, 2002) の記録があるが, 豊田町での記録は県西部の内陸部における最初の記録である。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに絶滅危惧 II 類。

カワニナ科 Family PLEUROCERIDAE

13. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859) F. (図版 II-13)

【記 録】 狗留孫山杉谷, 1999-V-5, 2exs., KM; 石町城戸, 2000-III-9, 3exs., KM; 本地吉 (豊田湖), 2002-IX-9, 14exs., KM; 江良川, 2007-VII-31, 1ex., KK; 2008-II-13, 5exs., KK; 日野川, 2007-VII-31, 1ex., KK; 2008-II-13, 5exs., KK; 稲見川, 2007-VII-31, 2exs., KK; 2008-II-13, 10exs., KK; 木屋川, 2008-II-13, 10exs., KK; 栗野川, 2007-VII-31, 1ex., KK; 2008-II-13, 10exs., KK; 宇内川, 2007-VII-31, 2exs., KK; 2008-II-13, 10exs., KK; 李路子川, 2008-II-13, 10exs., KK; 開作川, 2007-VII-31, 2exs., KK; 2008-II-13, 10exs., KK; 一位ヶ岳 (溪流), 2015-IX-22, 2exs., KM; 稲見, 2015-IX-30, 2exs., KM; 台 (石柱溪), 2015-XI-12, 2exs., KM.

【県内分布】 下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町.

【文 献】 藤原 (1969, 1973), 藤原・陶山 (1970), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963a, 1964), 増野 (1989b, c, d, 1990a, b, 1992a, 1993, 2000, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2000), 増本ら (2008), 多田 (1964).

【備 考】 各地の河川や用水路で普通。`清流にすみ, ゲンジボタルの餌となる貝`としてきれいな水にすむ生き物として扱われるが, むしろ人里や市街地に近い小河川や水路など, 有機質が多分に存在する水質を好むようである。ゲンジボタルが多く飛び交う豊田町内では, 町内各地の河川でみることができる。流水中にすむ個体は殻頂部が破損していることが多いが, 湖や池のような滞水域には完全な殻頂部をもつ

個体がみられる。雌雄異体で、雌が幼貝を直接産出する卵胎生。

異鰓目 Order HETEROBRANCHIA

モノアラガイ科 Family LYMNÆIDAE

14. ヒメモノアラガイ *Galba ollula* (Gould, 1859) F. (図版 II-14)

【記 録】大河内滝, 2002-IX-9, 3exs., KM; 宇内川, 2008-II-13, 2exs., KK; 稲見, 2015-IX-30, 5exs., KM; 高熊, 2016-VI-8, 1ex., KM; ノノ俣花瀬下, 2016-VII-20, 12exs., KM; ノノ俣伊呂里, 2016-VII-20, 18exs., KM.

【県内分布】長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町.

【文 献】藤原 (1969, 1973), 藤原・陶山 (1970), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 保坂・福田 (1996), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 増野 (1988a, 1989b, c, d, 1990a, 1995, 2000, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2001), 増本ら (2008), 岡藤 (1957), 多田 (1964).

【備 考】池沼や湖, 流れの緩やかな水路など止水域を好んで生息する。各地に分布するが, 類似した外来種も帰化している。同所的にみられるモノアラガイと比べて, 殻口が狭く, 螺塔が全体に高くなる。殻表面は光沢がある。一対の触角は三角形で, 触角の基部の内側に眼点がある。

15. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817) F. (図版 II-15)

【記 録】華山神上寺, 2010-VII-4, 15exs., KK; 稲見, 2015-IX-30, 2exs., KM.

【県内分布】阿武町, 宇部市, 田布施町.

【文 献】保坂・福田 (1996), 増野 (1989e, 2008a).

【備 考】溜池や用水路などの水草や落葉の表面ををう。同じ環境にすむヒメモノアラガイに似るが, より殻口が細く螺塔が高く伸びる。殻表面は成長脈が粗く, 光沢が弱い。外来種と考えられている。県内での分布拡大がみられる。豊田町内では2カ所で記録した。

16. モノアラガイ *Lymnaea auricularia japonica* Jay, 1857 F. (図版 II-16)

【記 録】高熊, 2006-VIII-24, 5exs., KK; 矢田, 2007-VIII-3, 1ex., KK.

【県内分布】萩市, 山口市, 周南市, 柳井市, 上関町.

【文 献】藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田・福田 (1995), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989c), 多田 (1964).

【備 考】各地の溜池や用水路に生息する。螺塔の高さに比べて殻口の広がり大きい, 右巻きの巻き貝である。近年, 生息地が減少してきている。同じ環境に生息する左巻きのサカマキガイが, 環境の悪化に強いのに対して, 本種は環境変化の影響を受けやすい。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

ヒラマキガイ科 Family PLANORBIDAE

17. ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis spirillus* (Gould, 1859) F. (図版 II-17a-c)

【記 録】日野, 1999-VI-30, 4exs., TF; 宇内川, 2007-VII-31, 2exs., KK; ノノ俣花瀬下, 2016-VII-20, 3exs., KM; 伊呂里, 2016-VII-20, 4exs., KM.

【県内分布】下関市, 萩市, 美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町.

【文 献】福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 藤原・土田 (1990), 保坂・福田 (1996), 池田・多田 (1963), 河本・田邊 (1956), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 増野 (1988a, 1989b, c, d, 1990b, 2008a, b), 増野・阿部 (2001), 増本ら (2008), 多田 (1964).

【備 考】各地に分布し、池沼や水田、水路など止水環境の水草などにみられる。殻径 5 mm ほどの扁平な円盤状の殻をもち、周縁は丸くなる。同じ環境にすむヒラマキガイモドキやレンズヒラマキガイとは、周縁や殻全体の形から識別は容易である。

18. ヒラマキガイモドキ *Polyplis hemisphaerula* (Benson, 1842) F. (図版 II-18a-c)

【記 録】木屋川, 2007-VII-31, 1ex., KK; 鷹子, 2007-VIII-3, 10exs., KK; 高熊, 2016-VI-8, 10exs., KM; 一ノ俣伊呂里, 2016-VII-20, 1ex., KM; 一ノ俣花瀬下, 2016-VII-20, 8exs., KM.

【県内分布】美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 周南市, 平生町.

【文 献】藤原・土田 (1990), 福田・福田 (1995), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 保坂・福田 (1996), 池田・多田 (1963), 河本・田邊 (1956), 黒住 (1975), 増野 (1989d, 2008b), 増本ら (2008).

【備 考】水田の用水路や池沼の水草に生息する。殻径 5mm ほどの扁平な円盤状をした殻をもつ。殻を横からみると台形をしており、底側には殻を透かして数本の帯状の内彫刻が確認できる。豊田町内でも数カ所確認した。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

サカマキガイ科 Family PHYSIDAE

19. サカマキガイ *Physa acuta* Draparnand, 1805 F. (図版 II-19)

【記 録】稲見川, 2007-VII-31, 1ex., KK; 宇内川, 2007-VII-31, 2exs., KK; 2008-II-13, 1ex., KK; 上殿敷神上川, 2007-XII-8, 1ex., KK; 稲見, 2015-IX-30, 5exs., KM; 一ノ瀬, 2016-VI-8, 6exs., KM.

【県内分布】下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町.

【文 献】藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田・福田 (1995), 保坂・福田 (1996), 河添 (1988, 1994), 増野 (1989b, c, d, 1990a, b, 1992a, 1999, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2000), 増本ら (2008).

【備 考】各地の水田や池沼、用水路などにみられる。殻は殻高 10 mm ほどの紡錘形で、左巻きである。右巻きのモノアラガイやヒメモノアラガイの触角が三角形をしているのに対し、本種は細長い鞭状をしており異なる。ヨーロッパ原産とされ、県内各地でみられる。在来のモノアラガイやヒメモノアラガイに比べて汚染に強く、多少環境の悪い排水路などでも生息がみられる。豊田町内の水田に普通である。

真有肺目 Order EUPULMONATA

オカミミガイ科 Family ELLOBIIDAE

20. ケシガイ *Carychium pessimum* Pilsbry, 1902 L. (図版 III-20)

【記 録】豊田湖畔, 2007-XII-17, 1ex., KK; 豊田湖東側, 2008-XI-16, 1ex., KK.

【県内分布】萩市.

【文 献】池田・多田 (1963), 福田・増野・杉村 (1992).

【備 考】落葉下にすむ白色透明な殻をもち、殻高 2 mm 弱の微小な右巻きの貝である。ルーペで拡大すると殻表面に微細な成長脈があり、光沢は弱い。類似種にニホンケシガイとスジケシガイがいるが、殻表面の光沢、殻の大きさから識別は容易である。3 種とも同様な環境に生息するが、豊田町内では本種のみ 2 個体を確認した。生息数は少なく希産である。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

ホソアシヒダナメクジ科 Family RATHOUIIIDAE

21. イボイボナメクジ *Granulilimax fusicornis* Minato, 1989 L. (図版 III-21a, b, X-3)

【記 録】矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 1ex. KM.

【県内分布】なし

【文 献】なし

【備 考】ホソアシヒダナメクジ科に属する本種は、軟体部の背面がいぼ状の顆粒で覆われており、殻をもたないナメクジの仲間である。今から30年近く前に記載・報告（湊, 1989b）され、今日までに19県から記録がある（湊, 2015）。肉食性であり、同じ場所から複数の採集がむずかしいというほど稀産である。山口県において、これまでナメクジの仲間は意識的に調査がなされてこなかった。昨年（2016年）、周南市の山中で筆者の一人増野が、偶然に1個体を発見した（未発表）。今回、豊田町内で貝類調査中、西市の西八幡宮境内の古木から成体1個体を発見した。2個体目の発見にチャレンジしているが、未だ再発見できていない。この報告が山口県における第1例目となる。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

オカモノアラガイ科 Family SUCCINEIDAE

22. ヒメオカモノアラガイ *Succinea lyrata* (Gould, 1859) L. (図版 III-22)

【記 録】一ノ俣荒木, 2016-VII-27, 4exs., KM.

【県内分布】長門市, 山口市, 周南市, 柳井市.

【文 献】福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 藤原・土田 (1990), 河添 (1994).

【備 考】庭園や水路の側溝などに生息する。殻は薄質半透明、黄褐色で光沢をもつ。殻口が大きく、その割に螺塔が高くない右巻きの貝。長短2対の触角があり、長い方の先に目がある。山口県内でも記録は少なく、豊田町内では一ノ俣の沿道の花壇で、外来種オオクビキレガイとともに記録した。オカモノアラガイ科には殻形の似た近縁種が報告（上島, 1995）されているが、町内産は剖検をしておらず、いちおう本種として記録しておく。

23. ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1901) L. (図版 III-23)

【記 録】宇内川, 2007-VII-31, 2exs., 増本ら.

【県内分布】下関市, 美祢市.

【文 献】増野 (1989d), 増本ら (2008).

【備 考】水田の水路や河川の水草の葉上などにみられるが、極めて生息数は少ない。殻形はモノアラガイに似るが、2対の触角があり識別は容易である。県内の記録は少ない。町内では宇内川で、水生生物の調査中に2個体が記録された。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

ミジンマイマイ科 Family VALLONIIDAE

24. マルナタネガイ *Parazoogenetes orcula* (Benson, 1850) L. (図版 III-24)

【記 録】勇山稲見川支流沿, 2015-IX-30, 1ex., KM; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 1ex., KM.

【県内分布】萩市, 美祢市, 周南市, 柳井市.

【文 献】藤原・土田 (1990), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989d, 2000), 増野・阿部 (2000), 岡藤 (1960).

【備 考】黒褐色をした球状円錐形で、殻高2mmほどの微小な貝である。柑橘類・紅葉樹・ムクノキ・アオキなどの樹皮や葉裏に着生することが多い。ヒラドマルナタネと酷似するが、本種は臍孔が閉じるのに対し、ヒラドマルナタネは臍孔が広く深い点で識別できる。

25. ヒラドマルナタネガイ *Pupisoma harpula* Reinhardt, 1886 L. (図版 III-25a-c)

【記 録】徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 2exs., KM.

【県内分布】 萩市, 周南市, 美祢市.

【文 献】 藤原・土田 (1990), 河上ら (1990), 増野 (1989d).

【備 考】 マルナタネガイと同じ環境に生息するが, 樹上性でムクノキなどに着生する. 球形をした巻き貝であり, 臍孔が開く点で前種と異なる. 生息数は少ない.

キセルガイモドキ科 Family ENIDAE

26. フトキセルガイモドキ *Mirus japonicus japonicus* (Moellendorff, 1885) L. (図版 III-26, X-4)

【記 録】 徳仙ノ滝, 1999-V-5, 3exs., KM; 2006-III, 1ex., KM; 2015-IX-7, 1ex., KM; 華山, 2006-III-10, 1ex., KK; 2007-VIII-28, 1ex., KK; 2009-V-12, 1ex., KK; 2009-VII-30, 1ex., KK; 2016-VIII-26, 1ex., KK; 狗留孫山, 1999-V-5, 2exs., KM; 2016-I-7, 2exs., KM.

【県内分布】 周南市, 岩国市.

【文 献】 藤原・土田 (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b), 土田・藤原・金井 (1978).

【備 考】 キセルガイの仲間が左巻きであるのに対し, 本種は紡錘形をした右巻きの殻をもつ. 県内には殻のふくらみがやや細いキセルガイモドキが生息するが, 豊田町で生息する個体はふくらみが大きい. このためフトキセルガイモドキとしている. しかし, キセルガイモドキとの大きな形態的差異はない. 現時点では, 殻および解剖学的に形態的なちがいが認められないので, 相対的な殻の大小で分類を行っている (湊宏氏からの私信, 2016).

キセルガイ科 Family CLAUSILIIDAE

27. スグヒダギセル *Paganizaphyx stimpsoni subgibbera* (Boettger, 1877) L. (図版 III-27, X-5)

【記 録】 狗留孫山, 1999-V-5, 2exs., KM; 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., TF; 2016-V-17, 1ex., KM; 柵路子杉谷, 2015-IX-15, 4exs., KM; 華山, 2015-IX-7, 3exs., KM; 華山山頂, 2016-IX-6, 1ex., KK; 矢田 (西八幡宮), 2007-VIII-3, 6exs., KK; 2016-V-11, 3exs., KM; 2016-XI-8, 8exs., KM.

【県内分布】 下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 山口市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 周防大島町, 岩国市.

【文 献】 藤原 (1969, 1972, 1977), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (1995), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1964, 1966), 増野 (1988a, 1989b, d, 1990a, b, 1993, 1996, 1999, 2006, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2001), 湊 (1994), 岡藤 (1957).

【備 考】 殻高 15mm ほどの紡錘形をしたキセルガイ類. 里山の倒木や寺社の古木, 山林の落葉下などに生息する. 人家近くの藪の中に集団でみられることがある. かつて山口県西部に分布する個体をナガトギセル "*Clausilia subaurantiaca* Pilsbry, 1900 (タイプローカリティ: 長門・出合), 県東部に分布するものをハリマギセル (タイプローカリティ: 香島・播磨) としていたが, 現在ではスグヒダギセルのシノニム (同種異名) としてまとめられている (湊, 1994). 豊田町内では最も普通なキセルガイ類である.

28. カワモトギセル *Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) kawamotoi* Kuroda et Taki, 1944 L. (図版 III-28, X-6)

【記 録】 柵路子杉谷, 1997-XII-23, 10exs., KM; 2015-IX-15, 1ex., KM; 柵路子小原, 2015-IX-15, 1ex., KM; 狗留孫山観音付近, 1999-V-5, 4exs., KM; 狗留孫山, 2006-IV-5, 1ex., KK; 2015-IX-15, 2exs., KM; 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., KM; 矢田 (西八幡宮), 2007-VIII-27, 1ex., KK; 華山, 1997-XII-23, 2exs., KM; 2015-IX-7, 2exs., KM; 2016-IX-1, 1ex., KK; 華山山頂, 2009-VI-7, 1ex., KK; 華山八合目, 2016-V-4, 1ex., KM; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 1ex., KM; 稲見豊前坊跡, 2015-IX-30, 4exs., KM; 一ノ俣ダム湖岸沿道斜面, 2016-VII-20, 1ex., KM.

【県内分布】 下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 岩国市.

【文 献】藤原 (1977), 藤原・土田 (1990), 藤原・伊藤 (1999), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (1995), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989a, d), 増野・阿部 (1999), 湊 (1994), 湊・藤原・伊藤 (1999), 岡藤 (1957), 土田・藤原・金井 (1978), 土田 (1990) .

【備 考】殻高 20 mm ほどの紡錘形をしたキセルガイ類. 山口県の貝類研究の権威者でもあった河本卓介氏が岩国市城山で発見し, 黒田徳米博士と滝 巖博士によって記載された. タイプローカリティの岩国市城山産の個体は, 殻口の唇縁に細かなきざみ状の彫刻がみられる (湊ほか, 1999). 県西部の個体は, 豊田町産も含めて唇縁の特徴は現れない. 町内には比較的多産する. 環境省 RDB では絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB では準絶滅危惧種.

29. モリヤギセル *Vastina (Vastina) vasta moriyai* (Kuroda et Taki, 1944) L. (図版 III-29, IX-1, X-7)

【記 録】土空路子小原, 1999-V-5, 2exs., KM; 狗留孫山, 2004-IV-10, 1ex., KK; 2007-VIII-19, 2exs., KK; 華山, 2005-VIII-25, 4exs., KK; 2006-III-10, 2exs., KK; 2015-IX-7, 3exs., KM; 2016-IX-1, 1ex., KK; 矢田, 2005-VIII-25, 4exs., KK; 殿敷, 2006-III-25, 1ex., KK; 大河内, 2006-IX-20, 1ex., KK; 今出, 2007-IV-21, 3exs., KK; 台 (石柱溪), 2007-VIII-23, 7exs., KK; 2009-X-28, 1ex., KK; 2015-XI-12, 5exs., KM; 徳仙ノ滝, 2009-V-12, 1ex., KK; 2009-X-25, 1ex., KK; 白土, 2015-IX-30, 1ex., KM.

【県内分布】萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 岩国市.

【文 献】藤原 (1972, 1977, 1990), 福田 (1995), 福田・増野・杉村 (1992), 伊藤 (1994), 河上ら (1990), 増野 (1989d, 2014), 増野・阿部 (1999, 2000), 湊 (1974, 1994), 岡藤 (1957), 土田・藤原・金井 (1978) .

【備 考】殻高 30 mm 前後のふっくらした紡錘形のキセルガイ類. 広島県北部をタイプローカリティとし, 中国地方全域および四国西部に分布する. 基亜種のオキギセルが九州に分布し, 山口県がその境界となっている. かつて山口県産はオキギセルとされたが, 腔襃の数が少ないこと, 生殖器の盲管が受精嚢部よりもはるかに長い点などから, 山口県産は本種とされた (湊, 1974, 1994) しかし, 秋吉台からはオキギセルの特徴をもつ複数個体の生息が報告されている (増野, 2014). 豊田町には比較的多産し, 目下のところすべてモリヤギセルの特徴をもつ. 環境省 RDB, 山口県 RDB とともに準絶滅危惧種.

30. ナミギセル *Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica* (Crosse, 1871) L. (図版 III-30)

【記 録】徳仙ノ滝, 1999-V-5, 2exs., KM; 殿敷, 1999-IX-1, 1ex., TF; 2007-VIII-3, 4exs., KK; 矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 2exs., KM; 2016-VI-8, 2exs., KM.

【県内分布】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 周南市, 光市, 柳井市, 平生町, 上関町, 岩国市.

【文 献】藤原 (1972, 1977, 1990), 福田・増野・杉村 (1992), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1964), 増野 (1989b, d, 1993, 1999, 2008b, d), 増野・阿部 (2000), 岡藤 (1957), 土田・藤原・金井 (1978) .

【備 考】各地の里山や市街地の草地, 落葉下に普通にみられる殻高 25 mm ほどの中形のキセルガイ類. 人家周辺にも生息し, 比較的なじみのあるキセルガイ類である.

31. シーボルトコギセル *Phaedusa sieboldtii* (L. Pfeiffer, 1848) L. (図版 III-31, X-8)

【記 録】狗留孫山, 2007-X-5, 1ex., KK; 華山, 2012-VIII-16, 1ex., KK.

【県内分布】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 宇部市, 周南市, 柳井市, 上関町.

【文 献】藤原 (1969), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1964), 増野 (1988a, 1989b, c, d, 1990a, 1992a, 1993, 1999), 増野・阿部 (1999, 2000, 2001), 湊 (1989a), 多田 (1964) .

【備 考】 海岸部や島嶼の林、寺社の社叢や境内に残る古木大木の樹幹に生息する樹上性のキセルガイ類。殻高 20 mm 弱で紫褐色の殻をもち、乾燥に強い。神社の御神木に生息することから、長命・安全航海・弾丸除け等の守護とされてきた（河上ら、1990）。下関市一の宮の住吉神社では、境内の古木にすむ本種のレプリカをお守りとしていた。そのほかにも、安産や早婚、夜泣き治療などの呪いに使用されたという、民俗学的にも興味あるキセルガイ（煙管貝）である（河上ら、1990）。樹上性であることから、生息環境の維持が懸念される。豊田町では、華山および狗留孫山山頂付近で生貝を記録した。

オカクチキレガイ科 Family SUBULINIDAE

32. オカチョウジガイ *Allopeas clavulinum kyotoense* (Pilsbry et Hirase, 1904) L. (図版 III-32, X-9)

【記 録】 八道, 1996-VI-2, 1ex, KM; 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex, KM; 2007-XII-15, 1ex, KK; 中ノ川, 2007-XII-17, 1ex, KK; 狗留孫山, 2007-XII-8, 1ex, KK; 華山山頂, 2009-VI-7, 1ex, KK; 奎路子, 2016-I-7, 1ex, KM.

【県内分布】 下関市, 萩市, 阿武町, 美祿市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市.

【文 献】 藤原・陶山 (1970), 藤原 (1969, 1990), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田・鹿野 (1986), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1966), 増野 (1988a, 1989b, c, d, 1990a, b, 1992a, 1995, 1999, 2006, 2008a, b, d), 岡藤 (1957), 多田 (1964).

【備 考】 人家周辺や里山の草地などに普通にみられる。殻高 10 mm ほどの細長い紡錘形の貝。殻は淡褐色で光沢がある。生貝の軟体部は濃い黄色を呈する。類似種にホソオカチョウジガイ, サツマオカチョウジガイ, マルオカチョウジガイ等があるが、殻頂部から体層にかけての膨らみや殻全体のプロポーシオンに差異がある。

33. ユウドオカチョウジガイ *Allopeas* sp. cf. *heudei* (Pilsbry, 1906) L. (図版 III-33)

【記 録】 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 1ex, KM.

【県内分布】 美祿市.

【文 献】 福田ら (1990), 増野 (1989d).

【備 考】 オカチョウジガイに類似するが、オカチョウジガイが殻頂部から体層にかけてふっくらしているのに対して、本種は殻頂からほっそりと体層にいたる。また、ホソオカチョウジガイほど細くはない。生息環境は、里山というよりは山地性である。県内での記録は少ない。豊田町内では、徳仙ノ滝の落葉中で 1 個体を記録した。

34. オオクビキレガイ *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758) L. (図版 III-34, IX-2, X-10)

【記 録】 一ノ俣荒木, 2016-VII-27, 8exs., KM・KK.

【県内分布】 下関市 長門市, 山陽小野田市, 宇部市, 山口市, 周南市, 岩国市.

【文 献】 保阪・福田 (1996), 増野 (1992c, 2008c, 2011), 松隈ら (2006).

【備 考】 本種は地中海地域原産の陸貝で、日本への移入は北九州市での確認が初めてである（湊・魚住, 1991）。その後、山口県宇部市で定着・繁殖が確認（増野, 1992c）され、ここ 20 数年のうちにほぼ山口県全域に拡大している（増野, 2011）。地中にもぐり越冬し、産卵数も多く雑食性である。繁殖が自家受精と他家受精の両方を行うこと（松隈ら, 2006）や、拡散が植木や花卉野菜などの人為的移動によることなどにより、駆除は容易ではない。下関市での生息は市街地や海岸部など早期に確認されていた。今回、内陸部の豊田町内、一ノ俣荒木で人家周辺での繁殖が確認された。

タワラガイ科 Family DIAPHERIDAE

35. タワラガイ *Sinoennea iwakawa* (Pilsbry, 1900) L. (図版 III-35, X-11)

【記 録】 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 2exs., KM; 2009-XI-8, 1ex., KK; 2015-XII-26, 5exs., KM; 2016-V-17, 2exs., KM; 2016-VIII-31, 2exs., KM・KK; 大河内, 2006-IX-20, 1ex., KK; 開作, 2007-XII-10, 2exs., KK; 華山キャンプ場, 2007-XII-15, 1ex., KK; 豊田湖畔, 2007-XII-17, 3exs., KK; 中ノ川, 2010-I-18, 1ex., KK; 2015-X-6, 1ex., KM; 天井ヶ岳, 2010-I-18, 2exs., KK; 稲見, 2010-II-21, 4exs., KK; 勇山稲見川支流沿い, 2015-IX-30, 2exs., KM.

【県内分布】 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 岩国市.

【文 献】 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989a, d), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1957), 山下・福田 (1996).

【備 考】 殻高 4 mm 前後で, 殻が米俵の形をしている. 殻の各層にはやや斜めの細い縦肋がある. 里山や森林の落葉下に生息するが多産はしない. 肉食性で, 死んだ貝殻から数個体がまとまって出てきたことがある. 豊田町内では落葉下から見つかり, 比較的産地は多いが個体数は少ない.

ナタネガイ科 Family PUNCTIDAE

36. ヒメナタネガイ *Punctum amblygonum pretiosum* Gude, 1900 L. (図版 IV-36a-c)

【記 録】 杵路子, 2016-I-7, 1ex., KM.

【県内分布】 美祢市.

【文 献】 増野 (1989d).

【備 考】 ナタネガイの仲間は, いずれも殻径が 2 mm 以下と極めて小さく, 殻色も褐色で発見しにくい. 採集はもっぱら, 林床の土壌を持ち帰って篩を通した後, 実体顕微鏡の下で行った. ヒメナタネガイはナタネガイ類の中でも大形で, 殻表面に斜めの薄板状の縦肋が目立つ. 周縁角が強く, 臍孔は広い. 豊田町内では杵路子の土壌から 1 個体のみ採取した.

37. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900 L. (図版 IV-37a-c)

【記 録】 勇山稲見川支流沿い, 2015-IX-30, 1ex., KM; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 7exs., KM; 中ノ川, 2016-IX-2, 4exs., KK.

【県内分布】 萩市, 美祢市, 柳井市.

【文 献】 池田・多田 (1963), 河本・田邊 (1956), 岡藤 (1957).

【備 考】 ナタネガイの仲間の中では小形である. 殻表面には弱い薄板状縦肋があるが, ヒメナタネガイに比べて滑らかである. 周縁は丸く, 臍孔は広い. 個体数は多い.

38. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Hirase, 1904 L. (図版 IV-38a-c)

【記 録】 勇山稲見川支流沿い, 2015-IX-30, 3exs., KM; 華山八合目付近, 2016-V-4, 2exs., KM.

【県内分布】 なし

【文 献】 なし

【備 考】 大きさ, 形ともにハリマナタネガイによく類似する. 殻表面には縦肋はなく, 顕微鏡で見ると微細で密な縦脈がある. 臍孔は開くが殻径に比べて狭く, 前の 2 種に比べても臍孔は小さい. 県内での過去の記録はなく, 今回が初記録となる.

ナメクジ科 Family PHILOMYCIDAE

39. ナメクジ *Meghimatium bilineatum* (Benson, 1842) L. (図版 XI-12)

【記 録】 矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 5exs., KM; 中村 (豊田ホテルの里ミュージアム), 2016-V-25, 1ex., KK.

【**県内分布**】萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 上関町.

【**文 献**】福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 河上ら (1990), 増野 (1988a, 1989a, b, c, d, 1994b, 2008d), 増野・阿部 (1999).

【**備 考**】在来のナメクジ類で, 軟体部が淡い灰褐色で甲羅はもたない. 体側と中央に黒褐色の縦帯がある. 人家や庭園などの湿った所に生息し, 野菜や草花などを食害する. 各地にみられるが, 最近では背面に甲羅をもつ外来のチャコウラナメクジの方に馴染みがある.

40. ヤマナメクジ *Meghimatium fruhstorferi* (Collinge, 1901) L. (図版 XI-13)

【**記 録**】大河内滝, 2002-IX-9, 1ex., KM; 矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 1ex., KM; 徳仙ノ滝, 2016-VIII-3, 1ex., KM.

【**県内分布**】下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 柳井市, 田布施町, 上関町, 岩国市.

【**文 献**】福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 河上ら (1990), 河本 (1963b), 増野 (1988a, 1989d, 1990a, b, 1992a, 1994b, 1995, 1996, 2008a, d), 増野・阿部 (1999, 2000).

【**備 考**】体長が 100 mm 以上にもなる大形のナメクジ類. 灰褐色~茶褐色の軟体で, 両側と中央に暗色の縦帯がある. 各地に生息し, 里山や山地内の倒木の裏や洞にひそんでいる.

コウラナメクジ科 Family LIMACIDAE

41. チャコウラナメクジ *Lehmannia valentiana* (Férussac, 1822) L. (図版 IV-41a, b)

【**記 録**】矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 1ex., KM; 中村 (豊田ホテルの里ミュージアム), 2016-V-25, 1ex., KK.

【**県内分布**】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 田布施町, 平生町, 上関町.

【**文 献**】福田・増野・杉村 (1992), 狩野ら (2001), 狩野 (2001), 河上ら (1990), 増野 (1992a, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2000), 山下・福田 (1996).

【**備 考**】軟体部は茶褐色で体長は 30 ~ 50 mm. 背面に 2 本の縦線があり, 頭部に続いた前半部分に甲羅を埋包した肉塊がある. この肉塊を開くと, 石灰質の薄い甲羅を摘出することができる. 人家周辺の植え込みの中, 植木鉢やプランターの裏など, 時には家の中まで侵入して困ることもある. 現在, 駆除対策のナメクジというと, 本種をさす場合が多い. 移入種.

ノナメクジ (ノハラナメクジ) 科 Family AGRIOLIMACIDAE

42. ノハラナメクジ *Deroceras laeve* (Müller, 1774) L.

【**記 録**】下浮石豊田東中学校, 1997-IV-1, 4exs., TS.

【**県内分布**】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 光市, 岩国市.

【**文 献**】狩野 (2001), 福田 (2002), 増野 (2008a)

【**備 考**】本種は移入種であり, 現在では国内の広い範囲に分布し, 野原, 水田やその周辺, 側溝などに多くみられる (狩野, 2001). 軟体部は黒色で, 背面に甲羅をもつ. 豊田町内では下浮石の旧豊田東中学校の敷地内で記録されている.

コハクガイ科 Family ZONITIDAE

43. コハクガイ *Zonitoides arboreus* (Say, 1816) L. (図版 IV-43a-c)

【**記 録**】タケ峠向原堂ヶ岳山麓浴, 2015-X-6, 1ex., KM.

【**県内分布**】下関市, 美祢市, 山口市, 周南市.

【**文 献**】藤原・土田 (1990), 福田・鹿野 (1986), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 増野 (1989d,

1992a) .

【備 考】 殻径 5 mm ほどで、螺塔の低い円盤状をしている。臍孔が大きく、周縁は丸くなる。殻は黄褐色で光沢がある。人家周辺や畑地など乾燥しやすい場所にも生息する。原産地が北米の移入種。県内では市街地にみられ、豊田町では 1 カ所で採集した。

ベッコウマイマイ科 Family HELICARIONIDAE

44. ヒラベッコウガイ *Bekkochlams micrograpta* (Pilsbry, 1900) L. (図版 IV-44a-c, XI-14)

【記 録】 華山キャンプ場, 2007-XII-15, 1ex., KK; 華山, 2007-XII-15, 1ex., KK; 豊田湖畔, 2007-XII-17, 3exs., KK; 萩原, 2007-XII-26, 1ex., KK; 中ノ川, 2010-I-18, 2exs., KK; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 1ex., KM; 狗留孫山, 2016-I-7, 1ex., KM.

【県内分布】 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市.

【文 献】 藤原 (1977), 藤原・土田 (1990), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b), 増野 (1989d, 1993, 2006, 2008a, b), 岡藤 (1957) .

【備 考】 殻径 9 mm ほどの小形の貝である。ベッコウ類の中でも螺塔が低く、殻頂部がわずかに盛り上がる。体層が急に大きく張り出し、周縁は丸い。殻色は淡い黄褐色で光沢がある。臍孔は小さく開く。殻形が類似するオオヒラベッコウガイは大形となり、殻径が 15 mm ほどにもなる。環境省 RDB では情報不足。

シタラ科 Family EUCONULIDAE

45. カサキビ *Trochochlamys crenulata crenulata* (Gude, 1900) L. (図版 IV-45a-c)

【記 録】 狗留孫山, 2007-XI-24, 4exs., KK; 2010-II-8, 1ex., KK; 徳仙ノ滝, 2007-XII-15, 1ex., KK; 2015-XII-26, 1ex., KM; 2016-V-17, 1ex., KM; 華山, 2007-XII-15, 1ex., KK; 華山八合目付近, 2016-V-4, 1ex., KM; 豊田湖畔, 2007-XII-17, 1ex., KK; 大河内, 2007-XII-8, 1ex., KK; 天井ヶ岳, 2010-I-18, 3exs., KK; 稲見, 2011-XI-21, 2exs., KK; 中ノ川, 2016-IX-2, 7exs., KK.

【県内分布】 萩市, 美祢市, 山口市, 柳井市, 岩国市.

【文 献】 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b), 増野 (1989b, d, 2000), 増野・阿部 (2000), 岡藤 (1957) .

【備 考】 殻径 3 mm, 殻高 4 mm ほどの円錐形の微小貝である。殻頂部が鋭角で、殻頂から周縁にかけてほぼ直線的な円錐形。体層周縁には角がある。林内の落葉下に生息し、比較的多産する。

46. ツシマナガキビ *Trochochlamys longissima* (Pilsbry & Hirase, 1909) L. (図版 IV-46)

【記 録】 上笠路子杉谷, 1999-V-5, 1ex., KM; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 16exs., KM.

【県内分布】 なし

【文 献】 なし

【備 考】 殻径 2 mm, 殻高 4 mm ほどの微小貝である。螺塔が著しく高い円錐形で、体層周縁に角がある。林内の落葉下に生息するが、局所的である。豊田町では今回の調査で徳仙ノ滝の 1 カ所からであるが、個体数は多い。タカキビに酷似するが、殻全体がふっくらしたタカキビに対して、本種はほっそりした円錐形である。過去に美祢市でタカキビと記録した個体 (増野, 1989d) は、本種の可能性が高い。また、筆者の一人増野は過去に町内でタカキビを採取している (未発表) が、本種の可能性が高い。最近 (2016 年), 萩市佐々連でも本種を採集した (未発表)。当地から池田ら (1963) が記録したタカキビは本種と考えられる。ツシマナガキビとしての豊田町の記録は、県内初記録である。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

47. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata subcrenulata* (Pilsbry, 1901) L. (図版 IV-47a-c)

【記 録】 萩原, 2007-XII-26, 1ex., KK; 上殿敷 (ホテル谷公園), 2008-III-29, 2exs., KK; 稲見, 2010-II-21, 3exs., KK; 稲見, 2011-XI-21, 7exs., KK; 狗留孫山, 2010-IX-3, 1ex., KK; 中ノ川, 2015-X-6, 3exs., KM; 2016-IX-2, 7exs., KK; 韋路子, 2016-I-7, 2exs., KM; 華山八合目付近, 2016-V-4, 4exs., KM.

【県内分布】 美祢市, 山口市, 田布施町.

【文 献】 河上ら (1990), 増野 (1989d, 2008a).

【備 考】 森林の落葉中に生息する殻径 3 mm ほどの微小貝である。低円錐形で極めて薄質である。殻頂角が大きく、殻は全体としてカサキビに比較して低く、周縁角は強い。また、殻表には微細で間隔の狭い成長肋を形成するため、殻表の光沢は鈍い。豊田町では比較的多くみられる。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

48. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901) L. (図版 IV-48a-c)

【記 録】 萩原, 2007-XII-26, 1ex., KK; 中ノ川, 2016-IX-2, 1ex., KK.

【県内分布】 萩市, 阿武町, 美祢市, 周南市, 平生町.

【文 献】 藤原・土田 (1990), 増野 (1989d, 2008b), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1957).

【備 考】 林内の落葉中に生息する殻径 2.5 mm ほどの微小貝である。殻は丸みのある円錐形で、淡黄褐色をしている。体層が大きく周縁は丸い。臍孔は狭く小さい。ヒゼンキビに類似するが、殻が大きく螺塔が高い。生息数は少ない。

49. ヒメハリマキビ *Parakaliella pagoduloides* (Gude, 1900) L. (図版 IV-49a-c)

【記 録】 大河内, 2007-XII-8, 1ex., KK; 檜原, 2007-XII-8, 1ex., KK; 徳仙ノ滝, 2016-V-25, 1ex., KM.

【県内分布】 萩市, 美祢市, 山口市, 岩国市.

【文 献】 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 増野 (1989d), 岡藤 (1957), 土田・藤原・金井 (1978).

【備 考】 林内の落葉中に生息する殻径 2 mm 弱の微小貝である。やや螺塔の高い丸みのある円錐形をしている。殻表面には細かい縦脈があり、絹のような光沢が現れる。臍孔は狭く小さい。体層が大きく周縁は丸い。巻き数が多く螺塔が高いという特徴からオオウエキビに類似するが、オオウエキビはキール状の周縁角が明瞭であることで区別できる。生息数は少ない。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

50. ヒゼンキビ *Parakaliella hizenensis* (Pilsbry, 1902) L. (図版 IV-50a-c)

【記 録】 徳仙ノ滝, 2016-VIII-21, 1ex., KM.

【県内分布】 美祢市.

【文 献】 増野 (1989d).

【備 考】 林内の落葉中に生息する殻径 2.3 mm ほどの微小貝である。ハリマキビに似るが、次体層の脹らみが弱く螺塔もやや低い。臍孔は狭く小さい。ハリマキビより小さい。生息数は極めて少ない。豊田町では徳仙ノ滝の落葉中から 1 個体のみ記録した。環境省 RDB では準絶滅危惧種。

51. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A. Adams, 1868) L. (図版 IV-51a-c)

【記 録】 豊田湖畔, 2007-XII-17, 1ex., KK; 豊田湖東側, 2008-XI-16, 1ex., KK; 中ノ川, 2007-XII-17, 1ex., KK; 2015-X-6, 1ex., KM; 2016-IX-2, 10exs., KK; 萩原, 2007-XII-26, 1ex., KK; 大河内, 2007-XII-8, 1ex., KK; 上殿敷 (ホテル谷公園), 2008-III-29, 2exs., KK; 天井ヶ岳, 2010-I-18, 1ex., KK; 稲見, 2010-II-21, 1ex., KK; 2011-XI-21, 4exs., KK; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 21exs., KM; 2016-V-25, 2exs., KM; 勇山稲見川支流沿い, 2015-IX-30, 9exs., KM; 華山八合目付近, 2016-V-4, 3exs., KM.

【**県内分布**】下関市，萩市，阿武町，美祢市，山口市，上関町，岩国市。

【**文 献**】藤原（1990），池田・多田（1963），河上ら（1990），河本・田邊（1956），河本（1963b），増野（1989d, 1990b, 2000），増野・阿部（1999, 2000），岡藤（1957）。

【**備 考**】各地の林内の落葉下にすむ殻径2.5 mmほどの微小貝である。螺塔の高い円錐形で巻き数が多い。螺層の間隔が狭いので，他の微小貝との識別は容易である。体層周縁に角があり，殻底は弧状となる。殻表面はなめらかで光沢がある。豊田町では個体数は少ないが，広い地域に生息している。

52. コシタカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883) L. (図版 IV-52)

【**記 録**】上殿敷神上川, 2007-XII-8, 1ex., KK; 上殿敷（ホテル谷公園）, 2008-III-29, 2exs., KK; 檜原, 2007-XII-8, 1ex., KK; 稲見, 2011-XI-21, 1ex., KK; 中ノ川, 2015-X-6, 2exs., KM; 2016-IX-2, 7exs., KK; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 1ex., KM; 杵路子, 2016-I-7, 2exs., KM; 華山八合目付近, 2016-V-4, 2exs., KM.

【**県内分布**】下関市，萩市，阿武町，美祢市。

【**文 献**】池田・多田（1963），河上ら（1990），増野（1989c, d, 1990b），増野・阿部（1999），岡藤（1957）。

【**備 考**】林内の落葉中にすみ，殻径2 mm，殻高2.5 mmほどの螺塔の高い円錐形の殻をもつ。各層に5～6条の螺条脈があり，体層に角をもつ。豊田町では広く分布している。

53. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877) L. (図版 V-53a-c)

【**記 録**】狗留孫山, 2007-XII-10, 2exs., KK; 2016-I-7, 4exs., KM; 華山（杵路子側）, 2007-XII-15, 1ex., KK; 華山八合目付近, 2016-V-4, 14exs., KM; 中ノ川, 2007-XII-17, 4exs., KK; 2015-X-6, 6exs., KM; 2016-IX-2, 32exs., KK; 檜原, 2007-XII-8, 1ex., KK; 天井ヶ岳, 2010-I-18, 4exs., KK; 稲見, 2010-II-21, 1ex., KK; 2011-XI-21, 5exs., KK; タケ埜向原堂ヶ岳山麓浴, 2015-X-6, 2exs., KM; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 13exs., KM; 2016-VIII-31, 2exs., KM; 勇山稲見川支流沿い, 2015-IX-30, 11exs., KM.

【**県内分布**】萩市，美祢市，山口市，柳井市，田布施町，平生町，上関町。

【**文 献**】藤原（1990），池田・多田（1963），河上ら（1990），河本・田邊（1956），増野（1989c, d, 2008a, b），岡藤（1957）。

【**備 考**】各地の林内落葉下に生息する，殻径2 mm弱の低平な円錐形の殻をもつ。殻は半透明で淡黄褐色を呈し，光沢がみられる。臍孔は閉じる。ヤクシマヒメベッコウに類似するが，2つを比較すると，おおよそ殻径3 mm未満で，殻がやや高く，螺層の間隔が狭く，螺層数の多いものが本種である。殻径が3 mm以上で，殻高が低く，螺層の間隔が広くなっている個体をヤクシマヒメベッコウとし，識別の目安としている。豊田町の各地の落葉中に普通にみられる。

54. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902) L. (図版 V-54a-c)

【**記 録**】狗留孫山, 1999-V-5, 2exs., KM; 豊田湖畔, 2007-XII-17, 2exs., KK; 天井ヶ岳, 2010-I-18, 1ex., KK; 稲見, 2011-XI-21, 1ex., KK; 大井出, 2011-XII-3, 1ex., KK; タケ埜向原堂ヶ岳山麓浴, 2015-X-6, 1ex., KM; 中ノ川, 2015-X-6, 2exs., KM; 徳仙ノ滝, 2015-XII-26, 4exs., KM; 杵路子, 2016-I-7, 1ex., KM; 華山八合目付近, 2016-V-4, 3exs., KM.

【**県内分布**】萩市，阿武町，美祢市，山口市，上関町。

【**文 献**】池田・多田（1963），河上ら（1990），増野（1989c, d, 2008d），増野・阿部（1999），岡藤（1957）。

【**備 考**】各地の林内落葉下に生息する，殻径2.5～3 mmほどの低平な円錐形の殻をもつ。殻色は淡黄褐色をして光沢がある。臍孔は閉じる。ヒメベッコウに類似するが，本種の方が一回り大きく成長する。識別の目安として，幼貝の時は螺層の間隔が広く，相対的に螺塔が低くなる。生息数は多く，豊田町でも各地の落葉中にみられる。

55. マルシタラガイ *Parasitala reinhardti* (Pilsbry, 1900) L. (図版 V-55a-d)

【記 録】 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., KM; 2007-XII-15, 1ex., KK; 2015-XII-26, 3exs., KM; 2016-V-17, 1ex., KM; 2016-VIII-31, 2exs., KM; 上殿敷 (ホテル谷公園), 2008-III-29, 2exs., KK; 2010-XI-16, 1ex., KK; 中ノ川, 2015-X-6, 1ex., KM; 2016-IX-2, 3exs., KK; 勇山稲見川支流沿い, 2015-IX-30, 3exs., KM; 李路子, 2016-I-7, 3exs., KM.

【県内分布】 下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 光市, 柳井市, 岩国市

【文 献】 藤原・土田 (1990), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989d, 1992a), 増野・阿部 (1999, 2000).

【備 考】 林内のアオキなどの常緑広葉樹の葉裏に付着していることが多い。殻径 5 mm, 殻高 4 mm ほどの丸みのある円錐形で淡黄白色。薄質半透明で光沢がある。幼貝では周縁角が強く、一見別種にみえるが、成貝では周縁が丸くなる。殻形がウスイロシタラガイに似るが、ウスイロシタラガイより一回り大きく、生息地は市街地近くの里山というよりは、山地になる傾向がある。県内各地に生息し、豊田町では広い地域で記録している。

56. ウスイロシタラガイ *Parasitala pallida* (Pilsbry, 1902) L. (図版 V-56a-c)

【記 録】 大井出, 2011-XII-3, 1ex., KK. 八道, 2011-XII-19, 1ex. KK.

【県内分布】 なし

【文 献】 なし

【備 考】 里山近くの灌木の葉裏や落葉中にみられる殻径 3.5 mm ほどの微小貝である。マルシタラガイに似るが、殻全体が一回り小さい。殻表は淡い黄褐色で、殻頂部は白色である。殻は薄くもろい。山口県内にも広く生息すると考えられるが、今回の豊田町の記録が県内発記録となる。

57. ツノイロヒメベッコウ *Ceratochlamys ceratodes* (Gude, 1900) L. (図版 V-57a-c, XI-15)

【記 録】 華山 (李路子側), 2007-XII-15, 2exs., KK; 華山, 2015-IX-7, 1ex., KM; 日野, 2007-XII-26, 1ex., KK; 檜原, 2007-XII-8, 1ex., KK; 上殿敷 (ホテル谷公園), 2008-III-29, 4exs., KK; 2008-XI-16, 1ex., KK; 狗留孫山, 2010-II-8, 1ex., KK; 2010-IX-3, 1ex., KK; タケ峠向原堂ヶ岳山麓浴, 2015-X-6, 1ex., KM; 台 (石柱溪), 2015-XI-12, 2exs., KM; 徳仙ノ滝, 2016-VIII-31, 1ex., KM.

【県内分布】 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 光市, 上関町, 岩国市。

【文 献】 藤原 (1977), 藤原・土田 (1990), 福田・鹿野 (1986), 池田・多田 (1963), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989c, d, 2000, 2008d), 増野・阿部 (1999, 2000), 土田・藤原・金井 (1978)。

【備 考】 林内の落葉下や草本群落中に生息する、殻径 5 mm ほどの低円錐形の貝。周縁にキール状の鋭い角をもつ。臍孔は閉じる。各地にみられ、豊田町では広い地域で記録した。

58. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877) L. (図版 V-58a-c)

【記 録】 徳仙ノ滝, 2007-XII-15, 1ex., KK; 2015-XII-26, 1ex., KM; 2016-V-17, 1ex., KM; 中ノ川, 2007-XII-17, 1ex., KK; 2016-IX-2, 4exs., KK; 豊田湖畔, 2007-XII-17, 1ex., KK; 一ノ俣ダム湖岸沿道斜面, 2016-VII-20, 1ex., KM.

【県内分布】 下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市。

【文 献】 藤原 (1977), 藤原・土田 (1990), 福田・鹿野 (1986), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b), 増野 (1988a, 1989b, d, 1990b, 2000, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1957)。

【備 考】 各地の林内落葉下に生息する、殻径 7 mm ほどの低い円錐形の殻をもつ貝。殻表面は強い光沢がある。縫合に沿って白色の縁がある。殻底の中ほどは白くなる。臍孔は狭いが開く。山口県内各地にみられる。

59. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902) L. (図版 V-59a-c)

【記 録】 徳仙ノ滝, 2010-I-24, 1ex., KK; 2016-V-17, 1ex., KM; 狗留孫山, 2010-II-8, 1ex., KK; 華山, 2015-IX-7, 3exs., KM; 2015-IX-10, 2exs., KM.

【県内分布】 萩市, 美祢市, 上関町.

【文 献】 河上ら (1990), 黒住 (1975), 増野 (1989d, 2008d).

【備 考】 各地の林内落葉下に生息する, 殻径 5 mm ほどの低い円錐形の貝. 殻表面はやや濃い赤褐色. 絹のような鈍い光沢がある. ルーペで見ると殻表に弱い波状の成長線がある. 臍孔は閉じる. 生息数は少なく, 豊田町では 2 カ所で記録した. 環境省 RDB では情報不足.

ナンバンマイマイ (ニッポンマイマイ) 科 Family CAMAENIDAE

60. コベソマイマイ *Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala* (Martens, 1865) L. (図版 VI-60a-c)

【記 録】 上柰路子小原, 1999-V-5, 1ex., KM; 狗留孫山, 2004-VI-10, 1ex., KK; 2007-VIII-19, 1ex., KK; 華山, 2007-XII-15, 1ex., KK; 2015-IX-7, 1ex., KM; 2016-V-4, 1ex., KM; 台 (石柱溪), 2008-X-22, 1ex., KK; 2015-XI-12, 1ex., KM; 江良, 2009-X-24, 1ex., KK; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 4exs., KM; 矢田 (西市小学校付近), 2016-VI-8, 1ex., KM.

【県内分布】 下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市.

【文 献】 藤原・陶山 (1970), 藤原 (1969, 1973, 1977), 福田・鹿野 (1986), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 日野 (1963), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1964, 1966), 増野 (1988a, 1989b, c, d, 1990a, b, 1992a, 1993, 1995, 1999, 2000, 2006, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2000, 2001), 岡藤 (1957), 多田 (1964), 土田・藤原・金井 (1978).

【備 考】 市街地周囲から山地まで広い範囲に生息する, 大形の陸貝である. 殻径 30 mm, 殻高 25 mm ほどで, 周縁に濃褐色の細い色帯をもつ. 殻色は黄褐色で鈍い光沢がある. 幼貝の時は臍孔が開くが, 成長とともに閉じる. 県内各地に普通にみられ, 豊田町でも普通種である.

61. シメクチマイマイ *Satsuma (Satsuma) ferruginea* (Pilsbry, 1900) L. (図版 VI-61a-c)

【記 録】 徳仙ノ滝, 2003-VI-3, 1ex., TF; 華山, 2006-IX-22, 2exs., KK; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 1ex., KM.

【県内分布】 下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 光市, 柳井市, 田布施町, 上関町, 岩国市.

【文 献】 藤原 (1977), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1964), 増野 (1989d, 2006, 2008a, d), 増野・阿部 (1999, 2000), 岡藤 (1960), 土田・藤原・金井 (1978).

【備 考】 低山地の林内に生息する, 殻径 17 mm, 殻高 12 mm ほどの円錐形の貝. 周縁に角はなく, 螺塔全体が丸い. 淡褐色で弱い光沢がある. 体層には薄い色帯がみられる. 口縁は白色で厚く反曲し, 内側には小さな滑層がある. 臍孔は広く開く. ニッポンマイマイに似るが, ニッポンマイマイは周縁が角張る. 山口県内での生息は少ない. 豊田町では 3 カ所で記録した.

62. ニッポンマイマイ *Satsuma (Satsuma) japonica japonica* (Pfeiffer, 1847) L. (図版 VI-62a-c, XI-16)

【記 録】 矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 3ex., KK・KM, 2016-IX-28, 1ex., KM.

【県内分布】 萩市, 美祢市, 山口市, 周南市, 岩国市.

【文 献】 藤原 (1972, 1977), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b), 増野 (1989d, 2000), 増野・阿部 (2000), 岡藤 (1960).

【備 考】低山地の林内に生息する，殻径 19 mm，殻高 17 mm ほどの円錐形の貝。殻色は黄褐色で，周縁に淡い色帯がある。周縁は角張る。口縁は白色で厚く反曲し，内側には小さな滑層がある。臍孔は開く。山口県内での生息は少ない。豊田町では矢田（西八幡宮）でのみ記録した。

63. タキカワオオベソマイマイ *Aegista (Aegista) friedeliana aperta* (Pilsbry, 1900) L. (図版 VI-63a-l, IX-3)

【記 録】上杣路小原, 1999-V-5, 1ex., KM; 上杣路杉谷, 1997-XII-23, 1ex., KM; 杣路子, 2007-IX-15, 1ex., KK; 徳仙ノ滝, 1999-V-5, 6exs., KM; 1999-V-9, 2ex., KK・TF; 2006-III, 2exs., KK; 華山, 2006-III-10, 4exs., KK; 2006-VI-24, 1ex., KK; 2006-IX-22, 1ex., KK; 2015-IX-10, 1ex., KM; 2016-V-4, 1ex., KM; 狗留孫山, 2006-III-5, 1ex., KK; 2006-IV-5, 1ex., KK; 2010-II-8, 1ex., KK; 2016-I-7, 1ex., KM; 今出, 2007-IV-21, 1ex., KK; 殿居, 2010-III-8, 1ex., KK; 稲見, 2011-XI-21, 3exs., KK; 大井出, 2011-XII-3, 1ex., KK; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 1ex., KM.

【県内分布】下関市, 長門市, 萩市, 美祢市, 山口市, 周南市.

【文 献】藤原 (1977), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1990), 福田 (1995), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1964), 増野 (1989d, 1990b, 2000), 増野・阿部 (2000), 岡藤 (1957).

【備 考】里山から山地までの広い範囲の落葉中に生息する，殻径 15 mm，殻高 7 mm ほどの低平な円錐形の貝。殻は濃い黄褐色で堅牢な殻質である。臍孔は著しく広い。周縁にチクヤケマイマイのような角はなく丸い。本種はタイプローカリティが下関市吉見町 (旧豊西上村) で，下関市豊浦町出身の瀧川昇平 (1976～1943) の採集標本を基に記載された (増野, 1990c)。豊田町も含めて山口県中・西部に産する本種と考えられる個体には，殻サイズをはじめ殻形・殻表面・生殖器等に変異があり，各形質を比較検討するなど，現在研究が進められている。かつては，山口県中・西部にタキカワオオベソマイマイ，県東部にコウベマイマイが生息しているとされた (山口県, 2003)。現在，比較対象となっている近縁種は，九州に分布する基亜種フリーデルマイマイ，近畿以西・四国・九州に広く分布するコウベマイマイ，その基亜種である四国に分布するトサマイマイ等である。課題の解決は，今後の研究に拠る。豊田町ではタキカワオオベソマイマイに混じって，「やや大きな鱗片状の付属物を密に規則的に配列」(東, 1995) し，殻底部に明瞭な螺脈が現れるフリーデルマイマイ様の個体 (図版 VI-g, h, I, j, k, l) がみられる。山口県 RDB では準絶滅危惧種。

なお，本類 (No. 62～70) は，従来のオナジマイマイ科 *Bradybaenidae* に位置図けられてきたが，最近ではナンバンマイマイ科に位置図けられている (早瀬ら, 2016: p.38)。

64. チクヤケマイマイ *Aegista (Plectotropis) aemula aemula* (Gude, 1900) L. (図版 VII-64a-c, XI-17)

【記 録】徳仙ノ滝, 1995-V-5, 1ex., KM; 矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 2ex., KK・KM; 華山, 2016-IX-1, 1ex., KK.

【県内分布】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市.

【文 献】藤原 (1969, 1977), 藤原・陶山 (1970), 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 日野 (1963), 平野ら (2016), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1966), 増野 (1988a, 1989b, c, d, 1990a, 1993, 1996, 1999, 2000, 2006, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2000, 2001), 岡藤 (1957), 多田 (1964).

【備 考】林内落葉下に生息する，殻径 16 mm，殻高 8 mm ほどの低平な円錐形をした貝。殻色は暗い黄褐色で，殻表は細かな鱗片状殻皮で覆われ，周縁には竜骨状の殻皮をもつ。臍孔は広く開く。県内各地に普通にみられる本種は，殻径 10～30 mm 弱と変異が大きく現れる傾向がある。最近，平野ら (2016) によって，下関市豊北町から本種と殻形態が酷似するツシマケマイマイの移入・定着が報告された。本種とツシマケマイマイの外観からの識別はなかなかむずかしく，生殖器の摘出によって比較しなければ種の同定

は困難である(湊ら, 1996)。チクヤケマイマイは生殖器に矢囊, 副囊, 粘液腺をもつが, ツシマケマイマイはこれらを欠く(東, 1995)。隣接する豊北町でのツシマケマイマイの発見は, 生物地理学上興味ある事実である。山口県でのチクヤケマイマイの分布は広い。豊田町では2カ所から記録した。

65. ダコスタマイマイ *Aegista dacostae dacostae* Gude, 1900 L. (図版 VII-65a-c, IX-4, XI-18)

【記 録】 狗留孫山修禪寺, 1999-VI-25, 1ex., KM; 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., KM; 2016-XI-8, 1ex., KM; 奈路子, 2006-VI-4, 2exs., KK; 矢田(西八幡宮), 2016-VI-8, 2exs., KM; 2016-IX-28, 2exs., KM.

【県内分布】 美祢市, 萩市, 山口市, 平生町.

【文 献】 河上ら(1990), 増野(1989d, 2000, 2008b), 増野・阿部(2000).

【備 考】 各地の里山や山地の林内に生息する, 樹上性の貝である。殻径 11 mm, 殻高 8 mm ほどで, 螺塔はやや高い。殻は濃い褐色で, 縫合の淡色帯は明瞭で幅が狭い。臍孔周辺も淡色となる。山口県では中・西部に多くみられる。豊田町内ではリシケオトメマイマイ "*Helix*" *lischkeana* Kobelt, 1879 と, 美祢市ではキュウシウシロマイマイと本種との混生がみられる。

66. リシケオトメマイマイ *Aegista collinsoni lischkeana* (Kobelt, 1879) ? L. (図版 VII-66a-c, IX-5, XI-19)

【記 録】 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 2exs., TF; 2000-VI, 2exs., KM; 2015-IX-7, 3exs., KM; 2015-XII-26, 1ex., KM; 狗留孫山, 1999-V-5, 1ex., KM; 殿敷, 2006-III-15, 1ex., KK; 華山, 2006-VI-12, 1ex., KK; 2006-VI-24, 3exs., KK; 2009-VII-30, 1ex., KK; 2015-IX-7, 1ex., KM; 2016-V-4, 1ex., KM; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 7exs., KM; 矢田(西八幡宮), 2016-V-11, 1ex., KM; 2016-VI-8, 2exs., KM.

【県内分布】 下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 田布施町, 平生町, 上関町.

【文 献】 福田(1995), 福田・増野・杉村(1992), 福田・土田(1989), 藤原(1970), 池田・多田(1963), 河上ら(1990), 河本・田邊(1956), 黒住(1975), 増野(1989b, 1992b, 1993, 1996, 1999, 2006, 2008a, b, d), 増野・阿部(1999, 2001).

【備 考】 山口県北部の海岸と島嶼部に分布する殻径 13mm, 殻高 9mm ほどの低い円錐形の貝である。樹上性で草本類の葉上や低木の樹幹をほう。殻は白地に赤褐色の細い色帯をもち, 美しい陸貝である。萩市の指月公園で, 萩中学校のお雇いドイツ人教師ラインフォルト・ヒレル(1841~1903)によって採集された個体を基に, 1879年に萩市をタイプローカリティとして記載された(河上ら, 1990)。福田ら(1989)は萩市から下関市(旧豊田町狗留孫山)までの個体を精査・比較して, 本種が形態的にも異なる2種を含むことを報告した。それに拠ると長門市(旧油谷町伊上)付近を境に, 東側に軟体部の外套膜上に顕著な黒色火焰彩をもつリシケオトメマイマイが, 西側では火焰彩が弱く小斑が散在する別種が分布している。確かに殻の大きさも別種とされる個体に比べて, リシケオトメマイマイはいくぶん小さい傾向がある。豊田町では, 別種とされる個体が華山や一位ヶ岳などの山地のみでなく, 平地の神社叢でもみられる。筆者らは生殖器の形態も含め軟体部形質の比較をしたが, 両者間の差異は認められなかった。外套膜上に斑紋をもたない個体群が, 県東部の瀬戸内海側でも各所で記録(増野, 1992b, 2008a, b, d; 増野・阿部, 2001)されており, 本種との関係に興味もたれる。今回の報告では, 本町に生息する個体を, 仮にリシケオトメマイマイとする。環境省 RDB では準絶滅危惧種, 山口県 RDB では絶滅危惧 IB 類。

67. ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi herklotsi* (Martens, 1860) L. (図版 VII-67a-c, XI-20a-c)

【記 録】 台(石柱溪), 1989-VII-29, 1ex., KM; 2015-XI-12, 1ex., KM; 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., KM; 2007-XII-15, 1ex., KK; 狗留孫山, 2004-IV-10, 2exs., KK; 2004-VI-10, 2exs., KK; 華山, 2004-IV-10, 1ex., KK; 2006-III-10, 1ex., KK; 2006-V-12, 1ex., KK; 2006-VI-24, 1ex., KK; 2007-XII-15, 1ex., KK; 2009-II-4, 1ex., KK; 2009-V-12, 2exs., KK; 2015-IX-7, 1ex., KM;

2015-IX-10, 2exs., KM; 華山八合目付近, 2016-V-4, 1ex., KM; 殿敷神上川, 2007-XII-8, 3exs., KK; 檜原, 2007-XII-8, 1ex., KK; 中ノ川, 2010-VI-22, 1ex., KK; 一位ヶ岳, 2015-IX-22, 1ex., KM; 矢田 (西八幡宮), 2007-VIII-27, 1ex., KK; 2016-V-11, 1ex., KM; 2016-IX-28, 1ex., KM.

【**県内分布**】下関市, 長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 周南市, 岩国市.

【**文 献**】藤原 (1970, 1973), 藤原・土田 (1990), 福田 (1995), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河本・田邊 (1956), 河本 (1964), 黒住 (1975), 増野 (1988a, 1989b, 1989d, 1990b, 1992a, 1996, 1999), 増野・阿部 (1999), 岡藤 (1957).

【**備 考**】里山から山地の林内に生息する, 殻径 40 mm, 殻高 25 mm ほどの大形低円錐形の貝. 落葉上をはっていることも多いが, 樹幹や枝に上っていることもある. 山口県内に普通に生息する大形種として本種を含め, セトウチマイマイ, コベソマイマイの3種があり, その中でも最大の殻をもつ. 黄褐色の殻表面に黒色の色帯の有無など, 多様な模様が現れる. 豊田町では普通にみられる.

68. サンインマイマイ *Euhadra dixonii dixonii* (Pilsbry, 1900) L. (図版 VII-68a-c)

【**記 録**】徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., KM; 2006-III, 1ex., KM; 狗留孫山, 2004-IV-10, 1ex., KK; 2004-VI-10, 2exs., KK; 2006-IV-5, 1ex., KK; 華山, 2006-III-10, 1ex., KK; 2006-VI-13, 1ex., KK; 2006-VI-24, 3exs., KK; 2009-VII-30, 1ex., KK; 矢田, 2007-VIII-3, 1ex., KK; 地吉, 2008-IX-13, 1ex., KK.

【**県内分布**】萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 上関町, 岩国市.

【**文 献**】藤原・土田 (1990), 福田 (1995), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 河上ら (1990), 池田・多田 (1963), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963a, b), 黒住 (1975), 増野 (1988a, 1989b, d, 1993, 1994b, 1996, 1999, 2000), 増野・阿部 (1999, 2000), 土田 (1992).

【**備 考**】里山から山地の林内に生息する, 殻径 35 mm, 殻高 30 mm ほどの高円錐形の貝. 樹木や草本類の枝や葉上にみられ, 樹上性. 殻は白色の地で, 黒色の色帯の有無など多様な模様をもつ. サンイン (山陰) という和名をもつが, 山口県内各地, 瀬戸内海側にも分布する. 豊田町では林内に普通である.

69. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894) L. (図版 VII-69a-c, XI-21)

【**記 録**】殿敷神上川, 2007-XII-7, 2exs., KK; 矢田 (西八幡宮), 2016-V-11, 1ex., KM; 2016-IX-28, 1ex., KM.

【**県内分布**】下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市.

【**文 献**】藤原 (1969, 1970, 1972, 1977), 藤原・陶山 (1970), 藤原・土田 (1990), 福田 (1995), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963a, b, 1964), 増野 (1989d, 1990a, 1993, 1996, 2000, 2006, 2008a, b, d), 増野・阿部 (2000, 2001), 土田・藤原・金井 (1978).

【**備 考**】里山や山地の林内に生息する, 殻径 30 mm, 殻高 25 mm ほどの低円錐形の貝. 林床の落葉上や人家近くの藪にもみられ, 人里にすむ馴染みのある貝である. 殻色は淡黄褐色で, 黒色の色帯の有無で多様な模様が現れる. セトウチ (瀬戸内) という和名をもつが, 山口県内の各地に普通で, 豊田町でもよくみかける.

70. コハクオナジマイマイ *Bradybaena pellucida* Kuroda et Habe, 1953 L. (図版 VII-70a-c)

【**記 録**】日野, 1999-VI-30, 1ex., TF.

【**県内分布**】長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 周南市, 田布施町, 岩国市.

【**文 献**】浅見ら (1997), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 河上ら (1990), 増野 (1989d, 1994a, b, 1999, 2000, 2008a), 増野・阿部 (1999, 2000), 山下・福田 (1996).

【備 考】人家周辺の畑や沿道の草藪など、比較的市街地に生息する。淡黄褐色の薄い殻をもち、殻径 15 mm、殻高 8 mm ほどの低円錐形の貝。殻が薄いため軟体部が透けて見えるが、殻頂部にある肝すい臓の鮮やかな黄色が特徴的である。また、この鮮やかな黄色は蛍光性をもつことが知られている (Seki *et al.*, 2008) 殻表面に赤茶色の色帯の有無の個体がある。山口県内に広く生息するが、豊田町では、日野の 1 カ所で記録した。

71. ウスカワマイマイ *Acusta despecta sieboldiana* (Pfeiffer, 1850) L. (図版 VII-71a-c, IX-6)

【記 録】江良, 1998-VIII-9, 1ex., TF; 徳仙ノ滝, 1999-V-9, 1ex., KM; 本浴上, 2015-IX-22, 2exs., KM; ノノ侯荒木, 2016-VII-27, 1ex., KM; 矢田 (西市小学校), 2016-VI-8, 3exs., KM.

【県内分布】下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町, 上関町, 岩国市.

【文 献】藤原 (1969, 1970, 1972, 1977), 藤原・陶山 (1970), 藤原・土田 (1990), 福田・鹿野 (1986), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 日野 (1963), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 河本 (1963b, 1964), 増野 (1988a, 1989b, c, d, 1990a, b, 1992a, 1993, 1995, 1996, 1999, 2000, 2006, 2008a, b, d), 増野・阿部 (1999, 2000, 2001), 岡藤 (1957), 多田 (1964), 山下・福田 (1996).

【備 考】各地の畑や荒地など比較的人家に近い場所に、普通に生息する。草藪の根元に群れて生息する。乾燥に強く、潮風を強く受ける海浜植物の根元などにもみられる。殻径 25 mm、殻高 20 mm ほどの丸い円錐形の貝。和名のとおり殻が薄く、成貝になっても殻口は肥厚反転しない。山口県内に広く生息し、豊田町でも普通である。江戸時代に長崎でオランダ商館の医師だったフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト (1796 ~ 1866) に因んだ陸貝 2 種のうち、本種の学名に彼の名前が入っている (湊, 1989a)。もう 1 種はシーボルトコギセルである。

イシガイ目 Order UNIONOIDA

イシガイ科 Family UNIONIDAE

72. ヌマガイ *Sinanodonta lauta* (Martens, 1834) ? F. (図版 VIII-72a, b)

【記 録】石町城戸, 2000-III-9, 4exs., KM.

【県内分布】下関市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山陽小野田市, 宇部市, 山口市, 周南市, 柳井市, 上関町, 岩国市.

【文 献】藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河上ら (1990), 河添 (1988, 1994), 河本・田邊 (1956), 増野 (1989d, 1992a, 2000), 高橋 (1976).

【備 考】全国の池・沼・湖沼, 河川の止水域などにすむ, 大形の二枚貝。かつてはドブガイ, ヌマガイ, タガイの別名で呼ばれていたが, 区別が明確でないためにドブガイとして総称されていた (波部, 1990)。その後の研究で, 遺伝子型や繁殖期, グロキジウムなどの微細構造などの相違によって A 型と B 型があることが報告されている (田部ら, 1994; 増田・内山, 2004; 近藤ら, 2006)。最近, 近藤ら (2011) は 2 型が混生する環境下での殻形態による判別を行い, A 型の外観が丸く膨らみの強いヌマガイと, B 型の細長く平たい傾向のあるタガイとの間の判別関数を求め, 2 つの個体群間の判別をした。これに拠ると, 豊田町の個体はヌマガイと考えられる。本種のような淡水産二枚貝には, タナゴ類が鰓に産卵するという興味ある生態がある。山口県内各地に生息するが, 日常は水底で生活しているので, 詳細な生息実態は把握できていない。豊田町では石町の溜池で記録した。

73. マルドブガイ *Sinanodonta calipygos* (Kobelt, 1869) F. (図版 VIII-73a, b)

【記 録】本地吉 (豊田湖), 2002-IX-9, 4exs., KM・IK

【県内分布】なし

【文 献】なし

【備 考】琵琶湖特産の二枚貝であるが、全国の湖沼やダム湖などに記録がある（増田・内山, 2004）。殻は卵円形で、殻頂部がほぼ中央に位置し、殻幅が大きくふくらむ。タナゴ類などの産卵母貝となる。山口県内では下松市の温見ダムで記録されている。淡水魚に寄生した幼生が魚の移植時に付随して持ち込まれ、定着したと考えられる（増田・内山, 2004）。豊田町の豊田湖では、多数の生息が確認されている。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類。

74. ニセマツカサガイ *Inversunio yanagawaensis* (Kondo, 1982) F. (図版 VIII-74a, b)

【記 録】八道（栗野川）, 2008-XII-16, 2exs., KK.

【県内分布】下関市。

【文 献】福田・増野・杉村（1992）, 福田（1995）。

【備 考】緩やかな流れのある河川の下流域や用水路などの砂泥底にすむ殻長 50 mm, 殻高 35 mm ほどの卵円形をした二枚貝。殻質は厚く、表面には後背縁の後端付近が湾入し、殻頂から後端縁にかけて太く低い隆起がある（増田・内山, 2004）。マツカサガイに酷似する。山口県内では長門市・萩市・山口市・宇部市などで確認されている。豊田町では栗野川で記録した。環境省 RDB, 山口県 RDB とともに絶滅危惧 II 類。

ザルガイ目 Order CARDIOIDA

シジミ科 Family CORBICULIDAE

75. タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Müller, 1774) F. (図版 VIII-75)

【記 録】日野川, 2008-II-13, 4exs., KK; 稲見川, 2008-II-13, 1ex., KK; 栗野川, 2007-VII-31, 3exs., KK; 2008-II-13, 10exs., KK; 宇内川, 2007-VII-31, 3exs., KK; 2008-II-13, 2exs., KK.

【県内分布】? ※県内全域に分布していると思われるが文献は見つけられなかった。

【文 献】増本ら（2008）。

【備 考】在来のマシジミと極めて近縁と考えられ（増田・内田, 2004）, 各地の用水路や川に繁殖している。海外からの移入種で、食用の活シジミとして輸入され、その稚貝等が野外で繁殖したと考えられる。雌雄同体で卵胎生である。山口県内でも市街地を流れる用水路を中心にマシジミが減少し、本種が拡大している。殻形は似ているが、マシジミの殻色が黒く殻内面が鮮やかな紫色を呈するに対し、タイワンシジミは殻色が黄色く、殻内面全体が白色で橙色になることもある。殻形態の差異はあくまでも目安にすぎず、外観からの識別はむずかしい。豊田町内の河川で多数を記録した。

76. マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864 F. (図版 VIII-76)

【記 録】本地吉（豊田湖）, 2002-IX-9, 5exs., KM; 台（石柱溪）, 1988-VII-29, 3exs., KM; 2015-XI-12, 1ex., KM; 石町城戸, 2007-X-30, 9exs., KK.

【県内分布】長門市, 萩市, 阿武町, 美祢市, 山口市, 防府市, 周南市, 柳井市, 田布施町, 平生町。

【文 献】藤原（1973）, 藤原・陶山（1970）, 藤原・土田（1990）, 福田・増野・杉村（1992）, 福田（2002）, 池田・多田（1963）, 河上ら（1990）, 河添（1994）, 河本・田邊（1956）, 増野（1989d, 2000, 2008a, b）, 増野・阿部（1999）, 多田（1964）。

【備 考】在来の淡水性二枚貝で、河口域に生息するヤマトシジミとともに、かつては食用にされた。殻長 20 ~ 30 mm で、生息環境によってその大小に多様さが現れる。小河川の流水中や池・沼などの止水域にもすむ。生息適地の減少とともに、外来のタイワンシジミの移入により生息地は少なくなっている。雌雄

同体で卵胎生。殻色は若齢個体は黄褐色であるが、成貝では漆黒光沢をもつ。殻内面は鮮やかな紫色を呈する。豊田町では石町の用水用溜池と石柱溪の溪流で記録した。環境省 RDB では絶滅危惧 II 類。

ドブシジミガイ科 Family SPHAERIDAE

77. ドブシジミ *Sphaerium japonicum* Westerlund, 1883 F. (図版 VIII- 77)

【記 録】 中ノ川, 2008-VIII-5, 4exs., KM; 稲見, 2015-IX-30, 1ex., KM; 一ノ俣花瀬下, 2016-VII-20, 12exs., KM.

【県内分布】 萩市, 山口市, 周南市, 平生町。

【文 献】 藤原・土田 (1990), 福田・増野・杉村 (1992), 福田・福田 (1995), 福田 (2002), 池田・多田 (1963), 河本・田邊 (1956), 増野 (2008b), 多田 (1964)。

【備 考】 各地の流れのゆるやかな水路や池沼, 水田などの泥底に生息する。淡い灰黄色の殻で, 表面の彫刻は微細で光沢をもつ。殻長 10 mm ほどで殻質は薄いが, 全体がよくふくらむ。卵胎生でふえる。豊田町では 3 カ所で記録した。

まとめ

調査の結果, 下関市豊田町から陸産 20 科 60 種, 淡水産 10 科 17 種, 計 30 科 77 種を確認・記録することができた。レッドデータブック掲載種などの重要種は, ゴマオカタニシ (図版 I-1; 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒダリマキゴマガイ (図版 I-8, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類), ホラアナミジンナ (図版 I-9a, b; 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧), マルタニシ (図版 II-10, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類), ヒメマルマメタニシ (図版 II-12, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類), モノアラガイ (図版 II-16, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒラマキガイモドキ (図版 II-18a-c; 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ケシガイ (図版 III-20, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), イボイボナメクジ (図版 III-21a, b, X-3; 環境省 RDB: 準絶滅危惧), カワモトギセル (図版 III-28, IX-6; 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類; 山口県 RDB: 準絶滅危惧), モリヤギセル (図版 III-29, IX-1, X-7; 環境省 RDB: 準絶滅危惧, 山口県 RDB: 準絶滅危惧), ヒラベッコウガイ (図版 IV-44a-c, XI-14; 環境省 RDB: 情報不足), ツシマナガキビ (図版 IV-46, 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒメカサキビ (図版 IV-47a-c; 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒメハリマキビ (図版 IV-49a-c; 環境省 RDB: 準絶滅危惧), ヒゼンキビ (図版 IV-50a-c; 環境省 RDB: 準絶滅危惧), キヌツヤベッコウ (図版 V-59a-c; 環境省 RDB: 情報不足), タキカワオオベソマイマイ (図版 VI-63a-1, IX-3; 山口県 RDB: 準絶滅危惧), リシケオトメマイマイ (図版 VII-66a-c, IX-5, XI-19; 環境省 RDB: 準絶滅危惧; 山口県 RDB: 絶滅危惧 IB), マルドブガイ (図版 VIII-73a, b; 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類), ニセマツカサガイ (図版 VIII-74a, b; 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類; 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類), マシジミ (図版 VIII-76, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類) の 22 種であった。

また, 山口県初記録がイボイボナメクジ, ミジンナタネガイ (図版 IV-38a-c), ツシマナガキビ, ウスイロシタラガイ (図版 V-56a-c) の 4 種であった。

謝 辞

本稿を作成するにあたり, 同定作業において懇切丁寧なご教示をいただいた日本貝類学会評議員の矢野重文氏, 淡水産貝類に関する資料の提供をいただいた元大阪教育大学の近藤高貴博士, 原稿を査読していただき貴重なご助言をいただいた日本貝類学会評議員の湊 宏博士に対し, 心より感謝申し上げます。また, 貴重な標本の借用や記録の提供をいただいた河上 勲氏, 福留孝義氏には記してお礼を申し上げます。

参考文献

- 東 正雄 (1995) 原色日本陸産貝類図鑑 (増補改訂版) .Xvi+343pp.+80pls. 保育社 . 大坂 .
- 阿武 至朗 (1963) 秋芳洞を中心とした洞窟動物 . 山口県の自然, **10**: 13-14.
- 浅見崇比呂 (1997) コハクオナジマイマイ (有肺亜綱: オナジマイマイ科) の地理的分布 . ユリヤガイ, **45**(1-2): 31-42.
- 波部忠重 (1990) 日本産非海産水棲貝類目録 (その1~3) . ひたちおび, (54) : 3-6, (55) : 3-9, (56) : 3-7. 東京貝類同好会 .
- 早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・湊 宏 (2016) 震災後の宮城県北部沿岸域で確認された陸産および淡水産貝類 . ちりぼたん, **46**(1-2): 2-62.
- 日野 巖 (1963) 見島の陸棲生物相の特異性 . 山口県の自然, **10**: 1-3.
- 平野尚浩・亀田勇一・福田 宏・斎藤 匠 (2016) 本州・山口県から新たに記録されたツシマケマイマイ (腹足綱: 有肺類: ナンバンマイマイ科) の移入個体群 . ちりぼたん, **46**(3-4): 149-153.
- 藤原廣治 (1969) 上関町長島・八島の貝類 . 山口県の自然, **22**: 33-37.
- 藤原廣治・陶山義仁 (1970) 防府市向島の貝類相 . 山口県の自然, **24**: 31-34.
- 藤原廣治 (1970) 豊北町周辺, 角島の貝類 . 山口県の自然, **20**: 45-48.
- 藤原廣治 (1972) 山口県のオキギセル . 山口県の自然, **27**: 19.
- 藤原廣治 (1973) 油谷町 (伊上, 人丸, 小浜) の貝類 . 山口県の自然, **30**: 22-25.
- 藤原廣治 (1977) 鹿野町秘密尾の陸貝 (予報) . 山口県の自然, **37**: 30.
- 藤原廣治・土田英治 (1990) 徳山付近の非海産貝類 . ユリヤガイ, **1**: 1-9.
- 藤原廣治 (1990) 山口県産サドヤマトガイの新産地 . 山口県の自然, **50**: 39-40.
- 藤原廣治・伊藤賢司 (1999) カワモトギセル岩国市城山で生息確認 . 山口県の自然, **59**: 29-30.
- 福田 宏・鹿野康裕 (1986) 山口県竹島の陸産貝類相 特に島嶼矮小型コベソマイマイについて . 南紀生物, **28**(2), 125-130.
- 福田敏一 (1990) 徳地町島地におけるヒメマルマメタニシの生息状況 . ユリヤガイ, **1**: 10.
- 福田敏一 (1995) 第7章 貝類 (pp.115-126) in 山口県の貴重な野生生物 . 136pp., 山口県野生生物保全対策検討委員会, 山口 .
- 福田 宏・土田英治 (1989) リシケオトメマイマイの再発見とその分布 . ちりぼたん, **19**(4), 97-104.
- 福田 宏・土田英治・堀 成夫・鹿野康裕・三時輝久 (1990) 山口県産貝類の研究-1 河本コレクションにおける注目すべき貝類の再検討 (1) 腹足類 . 山口県立山口博物館研究報告, **16**: 1-46.
- 福田 宏・増野和幸・杉村智幸 (1992) 概説 山口県の貝類 . 99pp.+50pls., 山口県立山口博物館, 山口 .
- 福田 宏・福田敏一 (1995) 山口市・阿知須町で得られた注目すべき淡水生貝類 . 山口県の自然, **55**: 21-26.
- 福田 宏 (2002) 徳地町の貝類 (pp.60-67) in 徳地の自然 . 101pp., 徳地町文化協会, 山口徳地 .
- 保坂健市・福田 宏 (1996) 絶滅危惧種ミズゴマツボ (腹足綱: 新紐舌目: ミズゴマツボ科) の山口県小野田市産個体群と周辺の貝類相の特徴, およびその保護の必要性 . ユリヤガイ, **4**(1-2): 65-96.
- 池田美成・多田武一 (1963) 山口県北部地方貝類目録 . 70pp., 萩市郷土博物館, 萩 .
- 伊藤賢司 (1994) 徳山市周辺産モリヤギセルガイの殻高の変異 . ユリヤガイ, **3**: 18.
- 環境省 (2007) レッドリスト 貝類 . 28pp., 報道発表資料, 哺乳類, 汽水・淡水産魚類, 昆虫類, 貝類, 植物 I 及び II のレッドリストの見直しについて . 環境省, 東京 .
- 狩野泰則ら (2001) 外来種チャコウラナメクジ (腹足綱: 有肺目: コウラナメクジ科) の山口県における分布と成熟度の季節変化 . ユリヤガイ, **8**(1): 1-13.

- 狩野泰則 (2001) 山口県産コウラナメクジ科の記録. ユリヤガイ, **8**(1): 33-36.
- 河上 勲・増野和幸・下瀬信雄・吉屋安隆・樋口尚樹・清水満幸 (1990) カタツムリの不思議—萩地方の陸産貝—. 2+85pp.+2pls.+1map., 萩市郷土博物館, 萩.
- 河本卓介・田邊澄生 (1956) 山口県産貝類目録. 8+viii+170pp., (incl. 25pls.), 山口県立山口博物館, 山口.
- 河本卓介 (1963a) 須佐湾の貝類. 山口県の自然, **10**: 45-48.
- 河本卓介 (1963b) 貝類班日誌 (岩国). 山口県の自然, **10**: 19-21.
- 河本卓介 (1964) 下関吉見地区の貝類. 山口県の自然, **12**: 22-31.
- 河本卓介 (1966) 大島瀬戸の貝類. 山口県の自然, **16**: 38-44.
- 河添佳典 (1988) 第七章 貝類 (pp.101-111) in 上関町史. 上関町史編纂委員会, 山口上関.
- 河添佳典 (1994) 柳井湾一帯の貝類採集目録. 25pp.+1 map., 自刊 (印刷), 柳井.
- 黒住耐二 (1975) 山口県見島で得た貝類 (そのいち). いそこじき, **21**: 17-20. 京都大学貝類同好会.
- 黒田徳米・波部忠重 (1949) かたつむり (*Helicacea*). 129pp., 三明社, 東京.
- 黒田徳米・波部忠重 (1958) 日本の洞窟並に地下水産巻貝類. *VENUS*, **19**(3・4): 183-193.
- Seki K., Wiwegweaw A., Asami T. (2008) Fluorescent pigment distinguishes between sibling snail species. *ZOOLOGICAL SCIENCE*, **25**: 1212-1219.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一 (2006) ドブガイに見られる遺伝的2型のグロキディム幼生の形態. *Venus*, **65**: 241-245.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一 (2011) ヌマガイとタガイの殻形態による判別. ちりぼたん, **41**(2): 84-88.
- 増野和幸 (1988a) 萩市大島の陸産貝類. 山口生物, **15**: 5-8.
- 増野和幸 (1988b) 美東町の陸産・淡水産貝類. 山口県の自然, **48**: 27-33.
- 増野和幸 (1989a) 美東町の陸産・淡水産貝類 (追補). 山口県の自然, **49**: 29-32.
- 増野和幸 (1989b) 萩市相島の陸産・淡水産貝類. 山口県の自然, **49**: 1-3.
- 増野和幸 (1989c) 萩市見島の非海産貝類. 山口生物, **16**: 3-7.
- 増野和幸 (1989d) 美祢郡陸産ならびに淡水産貝類. 57pp. (incl. 8pls.). 自刊 (印刷), 山口小郡.
- 増野和幸 (1989e) 第一編阿武町の自然 第二章動物 第四節 貝類 (pp.129-161) in 阿武町史 下巻. 阿武町史編さん委員会, 山口阿武.
- 増野和幸 (1990a) 山口県柳井市の平郡島の貝類. 山口生物, **17**: 4-9.
- 増野和幸 (1990b) 下関市蓋井島の陸産貝類. 山口県の自然, **50**: 36-38.
- 増野和幸 (1990c) 山口の貝人伝 (1) 瀧川昇平氏 (1876-1943). ユリヤガイ, **1**: 35-36.
- 増野和幸 (1992a) 豊北町角島の非海産貝類. ユリヤガイ, **2**: 1-8.
- 増野和幸 (1992b) 上関町皇座山に生息するオトメマイマイ属の一種. ユリヤガイ, **2**: 14.
- 増野和幸 (1992c) オオクビキレガイ山口県に産す. ちりぼたん, **22**(2): 55-56.
- 増野和幸 (1993) 山口県上関町祝島の非海産貝類. 山口県の自然, **53**: 18-22.
- 増野和幸 (1994a) コハクオナジマイマイの有帯型が生息. ユリヤガイ, **3**: 25.
- 増野和幸 (1994b) 自然観察ガイドブック 木間の自然動物編. 58pp. 自刊, 山口.
- 増野和幸 (1995) 山口県防府市野島の非海産貝類. 山口生物, **22**: 25-29.
- 増野和幸 (1996) 羽島・肥島 (萩市沖合) の非海産貝類. 山口県の自然, **56**: 35-41.
- 増野和幸・阿部弘和 (1999) 山口県阿武郡阿武町の非海産貝類. 山口県の自然, **26**: 9-28.
- 増野和幸 (1999) 櫃島・尾島 (萩市沖合) の非海産貝類. 萩市郷土博物館研究報告, **9**: 32-37.
- 増野和幸・阿部弘和 (2000) 山口県須佐町の非海産貝類. 萩市郷土博物館研究報告, **10**: 54-67.
- 増野和幸 (2000) 第二章川上村の動物 五 貝類 (pp. 319-335) in 川上村史 資料編. 川上村史編集委員会, 山口.

- 増野和幸・阿部弘和 (2001) 山口県熊毛郡上関町長島および八島の非海産貝類. 山口生物, **27**: 3-16.
- 増野和幸 (2006) 山口県熊毛郡田布施町馬島の非海産貝類相. 山口県の自然, **66**: 3-8.
- 増野和幸・吉崎 宏 (2007) 淡水棲腹足類の絶滅危惧種 2 種 ヒメマルマメタニシ *Bippeutis kiusiuensis* とクルマヒラマキガイ *Hoppeutis cantori* の山口県東部における棲息状況. 山口県の自然, **67**: 23-26.
- 増野和幸 (2008a) 山口県田布施町の非海産貝類. 山口県の自然, **68**: 16-23.
- 増野和幸 (2008b) 山口県熊毛郡平生町の非海産貝類相. 山口生物, **30**: 26-51.
- 増野和幸 (2008c) 移入種オオクビキレガイの山口県での生息状況. 山口県の自然, **68**: 24-27.
- 増野和幸 (2008d) 自然観察ガイドブック作成のための基礎資料 上関町の非海産貝類. i-iii+42pp., 自刊, 山口.
- 増野和幸 (2011) 山口県内で生息が拡大する外来種オオクビキレガイ *Rumina decollate*. 山口県の自然, **71**: 33-36.
- 増野和幸 (2014) 秋吉台草原上に形成されたブッシュ (小樹林) の陸貝相. 山口県の自然, **74**: 29-35.
- 増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. pp.240, 株式会社ビーシーズ, 東京.
- 増本育子・中西 毅・若尾拓志・川野敬介 (2008) 豊田町の水生生物相. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (1): 25-38.
- 松隈明彦・秋月定良・秋月シズカ・嶺井久勝 (2006) 偶発的移入種オオクビキレガイ (腹足綱: オオクビキレガイ科) の福岡県での生息状況とその拡散速度. ちりぼたん, **37**(1): 7-12.
- 岡藤五郎 (1957) 山口県秋吉台洞窟およびその付近の貝類について (予報). *Venus*, **19**(3-4): 197-205.
- 岡藤五郎 (1960) 秋吉台の陸貝「カタツムリ」. 山口県の自然, **8**(3): 3-7.
- 岡藤五郎 (1977) アキヨシホアラナミジンニナについて. ちりぼたん, **9**(5): 105-109.
- 岡藤五郎・初鹿 了 (1979) *Bythinella* 属貝の山口県西部における分布状況. 日本医事新報, 2891: 31-34.
- 湊 宏 (1974) オキギセルとモリヤギセル. 山口県の自然, **31**: 8-11.
- 湊 宏 (1980) 陸産貝類の観察と研究. 85pp., ニュー・サイエンス社, 東京.
- 湊 宏 (1988) 日本産陸棲貝類総目録. 294pp., 日本産陸棲貝類総目録刊行会, 白浜.
- 湊 宏 (1989a) シーボルトコギセルガイ. 日本の生物, **3**(5): 48-54.
- 湊 宏 (1989b) 日本産ナメクジ科の新属新種, イボイボナメクジに記載. *Venus*, **48**(4): 255-258.
- 湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus*, Supplement 2: 212pp. + tables 6 + plates 74. 日本貝類学会.
- 湊 宏・魚住賢司 (1991) 北九州市で見つかったオオクビキレガイ. ちりぼたん, **22**(3): 72-74.
- 湊 宏・矢野重文・魚住賢司 (1996) 福岡市で採集されたツシマケマイマイ. 九州の貝, (46): 7-9.
- 湊 宏・増田 修 (1998) 日本産野生生物目録 (44), 軟体動物門: マキガイ綱 (腹足綱), ニマイガイ綱 (二枚貝綱). (pp. 25-48). In 「環境庁 (編): 日本産野生生物目録—本邦野生動物の種の現状—」. 49pp., 自然環境研究センター, 東京.
- 湊 宏・藤原廣治・伊藤賢司 (1999) 岩国市城山のカワモトギセル. ちりぼたん, **29**(3): 57-59.
- 湊 宏 (2000) 「日本産陸産貝類総目録 (1988)」以後の追加種一覧. 九州の貝, (54): 9-16.
- 湊 宏 (2009) 「日本産陸産貝類総目録 (1988)」以後の追加種一覧. 九州の貝, (72): 35-44.
- 湊 宏 (2015) 陸産貝類研究備忘録 (14), イボイボナメクジ種群 (ホソアシヒダナメクジ科) の分布とその文献抄. かいななま, **49**(1): 1-12.
- Nordsieck, H. 1998. Notes on the nomenclature of Phaedusinae (Gastropoda, Stylommatophora: Clausiliidae). *Heldia*, **2**(5-6): 127-131.
- 多田武一 (1964) 見島産貝類目録 in 見島総合学術報告書 生物の部 (pp.136-173). 山口県教育委員会, 山口.
- 高橋英太郎 (1976) 下関市清末に淡水産タガイ生息. 山口県の自然, **34**: 12.

- 田部雅昭・福原修一・長田芳和 (1994) 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的2型. *Venus*, **53**(1): 29-35.
- 土田英治・藤原廣治・金井照夫 (1978) 山口県寂地山の陸貝. ちりぼたん, **10**(3): 70-72.
- 土田英治 (1990) 背の高いカワモトギセル. ユリヤガイ, **1**: 31.
- 土田英治 (1992) 徳山市洲島のサンインマイマイ. ユリヤガイ, **2**: 13-14.
- 豊田町史編纂委員会 (1979) 豊田町史. 993pp, 豊田町.
- Ueshima, R. (1995) Rediscovery of *Neosuccinea kofui* Patterson, 1971 with notes on the Taxonomic position of "*Succinea*" *lyrata* Gould, 1859 and "*S.*" *horiticola* Reinhardt, 1877. (コウフオカモノアラガイの再発見とヒメオカモノアラガイ, リュウキュウヒメモノアラガイの分類学的な位置). *Venus*, **54**(3): 161-173.
- 矢野重文 (2001) 香川県産ヒラマキガイ属貝類の分類について. まいご, **9**: 7-14, 四国貝類談話会.
- 矢野重文 (2002) 四国産ムシオイガイ科貝類. まいご, **10**: 10-15, 四国貝類談話会.
- 矢野重文 (2003) ムシオイガイ科貝類の研究 (2). まいご, **11**: 10-14, 四国貝類談話会.
- 矢野重文 (2015) 種の考察, 分布図からのアプローチ. まいご, **22**: 21-31, 四国貝類談話会.
- 矢野重文 (2016) ナタネガイ類の分類について, まいご, **23**: 3-10, 四国貝類談話会.
- 山口県 (2003) レッドデータブックやまぐち (貝類). 2pls.+55pp. 山口県環境生活部自然保護課, 山口.
- 山下博由・福田 宏 (1996) サナギガイの殻形態と分布 (腹足綱: 柄眼目: サナギガイ科). ユリヤガイ, **4**(1-2): 169-177.

下関市豊田町の陸産・淡水産貝類のリスト

腹足綱 Class GASTROPODA

原始紐舌目 Order NERITIMORPHA

ゴマオカタニシ科 Family HYDROCENIDAE

1. ゴマオカタニシ *Georissa japonica* Pilsbry, 1900

新生腹足目 (中腹足目) Order CAENOGASTROPODA

ヤマタニシ科 Family CYCLOPHORIDAE

2. ヤマタニシ *Cyclophorus herklotsi* Martens, 1860
3. アツブタガイ *Cyclotus campanulatus campanulatus* Martens, 1865
4. ミジンヤマタニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900)
5. ヤマグルマガイ *Spirostoma aponicum aponicum* (A. Adams, 1867)

ムシオイガイ科 Family ALYCAEIDAE

6. ピルスブリムシオイガイ *Chamalycaeus pilsbryi* (Kobelt, 1902)

ゴマガイ科 Family DIPLOMMATINIDAE

7. キュウシュウゴマガイ *Diplommatina (Sinica) tanegashimae kyusyuensis* Pilsbry et Hirase, 1904
8. ヒダリマキゴマガイ *Diplommatina (Sinica) pusilla pusilla* (Martens, 1877)

ヌマツボ科 Family AMNICOLIDAE

9. ホラアナミジンニナ *Moria nipponica* (Mori, 1937)

タニシ科 Family VIVIPARIDAE

10. マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860)
11. ヒメタニシ *Sinotaia quadrata histrica* (Gould, 1859)

エゾマメタニシ科 Family BITHYNIIDAE

12. ヒメマルマメタニシ *Gabbia kiusiuensis* (S. Hirase, 1927)

カワニナ科 Family PLEUROCERIDAE

13. カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)

異鰓目 Order HETEROBRANCHIA

モノアラガイ科 Family LYMNAEIDAE

14. ヒメモノアラガイ *Galba ollula* (Gould, 1859)
15. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say, 1817)
16. モノアラガイ *Lymnaea auricularia japonica* Jay, 1857

ヒラマキガイ科 Family PLANORBIDAE

17. ヒラマキミズマイマイ *Gyraulus chinensis spirillus* (Gould, 1859)
18. ヒラマキガイモドキ *Polyptylis hemisphaerula* (Benson, 1842)

サカマキガイ科 Family PHYSIDAE

19. サカマキガイ *Physa acuta* Drapamand, 1805

真有肺目 Order EUPULMONATA

オカミミガイ科 Family ELLOBIIDAE

20. ケシガイ *Carychium pessimum* Pilsbry, 1902

ホソアシヒダナメクジ科 Family RATHOUIIIDAE

21. イボイボナメクジ *Granulilimax fusicornis* Minato, 1989

オカモノアラガイ科 Family SUCCINEIDAE

22. ヒメオカモノアラガイ *Succinea lyrata* (Gould, 1859)

23. ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1901)

ミジンマイマイ科 Family VALLONIIDAE

24. マルナタネガイ *Parazoogenetes orcula* (Benson, 1850)

25. ヒラドマルナタネガイ *Pupisoma harpula* Reinhardt, 1886

キセルガイモドキ科 Family ENIDAE

26. フトキセルガイモドキ *Mirus japonicus japonicus* (Moellendorff, 1885)

キセルガイ科 Family CLAUSILIIDAE

27. スグヒダギセル *Paganizaptyx stimpsoni subgibbera* (Boettger, 1877)

28. カワモトギセル *Tyrannophaedusa (Decolliphaedusa) kawamotoi* Kuroda et Taki, 1944

29. モリヤギセル *Vastina (Vastina) vasta moriyai* (Kuroda et Taki, 1944)

30. ナミギセル *Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica* (Crosse, 1871)

31. シーボルトコギセル *Phaedusa sieboldtii* (L. Pfeiffer, 1848)

オカクチキレガイ科 Family SUBULINIDAE

32. オカチョウジガイ *Allopeas clavulinum kyotoense* (Pilsbry et Hirase, 1904)

33. ヌウドオカチョウジガイ *Allopeas* sp. cf. *heudei* (Pilsbry, 1906)

34. オオクビキレガイ *Rumina decollata* (Linnaeus, 1758)

タワラガイ科 Family DIAPHERIDAE

35. タワラガイ *Sinoennea iwakawa* (Pilsbry, 1900)

ナタネガイ科 Family PUNCTIDAE

36. ヒメナタネガイ *Punctum amblygonum pretiosum* Gude, 1900

37. ハリマナタネガイ *Punctum japonicum* Pilsbry, 1900

38. ミジンナタネガイ *Punctum atomus* Pilsbry & Hirase, 1904

ナメクジ科 Family PHILOMYCIDAE

39. ナメクジ *Meghimatium bilineatum* (Benson, 1842)

40. ヤマナメクジ *Meghimatium fruhstorferi* (Collinge, 1901)

コウラナメクジ科 Family LIMACIDAE

41. チャコウラナメクジ *Lehmanmia valentiana* (Férussac, 1822)

ノナメクジ (ノハラナメクジ) 科 Family AGRILIMACIDAE

42. ノハラナメクジ *Deroceras laeve* (Müller, 1774)

コハクガイ科 Family ZONITIDAE

43. コハクガイ *Zonitoides arboreus* (Say, 1816)

ベッコウマイマイ科 Family HELICARIONIDAE

44. ヒラベッコウガイ *Bekkochlamys micrograpta* (Pilsbry, 1900)

シタラ科 Family EUCONULIDAE

45. カサキビ *Trochochlamys crenulata crenulata* (Gude, 1900)

46. ツシマナガキビ *Trochochlamys longissima* (Pilsbry & Hirase, 1909)

47. ヒメカサキビ *Trochochlamys subcrenulata subcrenulata* (Pilsbry, 1901)

48. ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901)
 49. ヒメハリマキビ *Parakaliella pagoduloides* (Gude, 1900)
 50. ヒゼンキビ *Parakaliella hizenensis* (Pilsbry, 1902)
 51. キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A. Adams, 1868)
 52. コシタカシタラガイ *Sitalina circumcincta* (Reinhardt, 1883)
 53. ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877)
 54. ヤクシマヒメベッコウ *Discoconulus yakuensis* (Pilsbry, 1902)
 55. マルシタラガイ *Parasitala reinhardti* (Pilsbry, 1900)
 56. ウスイロシタラガイ *Parasitala pallida* (Pilsbry, 1902)
 57. ツノイロヒメベッコウ *Ceratochlamys ceratodes* (Gude, 1900)
 58. ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877)
 59. キヌツヤベッコウ *Nipponochlamys semisericata* (Pilsbry, 1902)
ナンバンマイマイ (ニッポンマイマイ) 科 Family CAMAENIDAE
 60. コベソマイマイ *Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala* (Martens, 1865)
 61. シメクチマイマイ *Satsuma (Satsuma) ferruginea* (Pilsbry, 1900)
 62. ニッポンマイマイ *Satsuma (Satsuma) japonica japonica* (Pfeiffer, 1847)
 63. タキカワオオベソマイマイ *Aegista (Aegista) friedeliana aperta* (Pilsbry, 1900)
 64. チクヤケマイマイ *Aegista (Plectotropis) aemula aemula* (Gude, 1900)
 65. ダコスタマイマイ *Aegista dacostae dacostae* Gude, 1900
 66. リシケオトメマイマイ *Aegista collinsoni lischkeana* (Kobelt, 1879) ?
 67. ツクシマイマイ *Euhadra herklotsi herklotsi* (Martens, 1860)
 68. サンインマイマイ *Euhadra dixoni dixoni* (Pilsbry, 1900)
 69. セトウチマイマイ *Euhadra subnimbosa* (Kobelt, 1894)
 70. コハクオナジマイマイ *Bradybaena pellucida* Kuroda et Habe, 1953
 71. ウスカワマイマイ *Acusta despecta sieboldiana* (Pfeiffer, 1850)

イシガイ目 Order UNIONOIDA

イシガイ科 Family UNIONIDAE

72. スマガイ *Sinanodonta lauta* (Martens, 1834) ?
 73. マルドブガイ *Sinanodonta calipygos* (Kobelt, 1869)
 74. ニセマツカサガイ *Inversiumio yanagawaensis* (Kondo, 1982)

ザルガイ目 Order CARDIOIDA

シジミ科 Family CORBICULIDAE

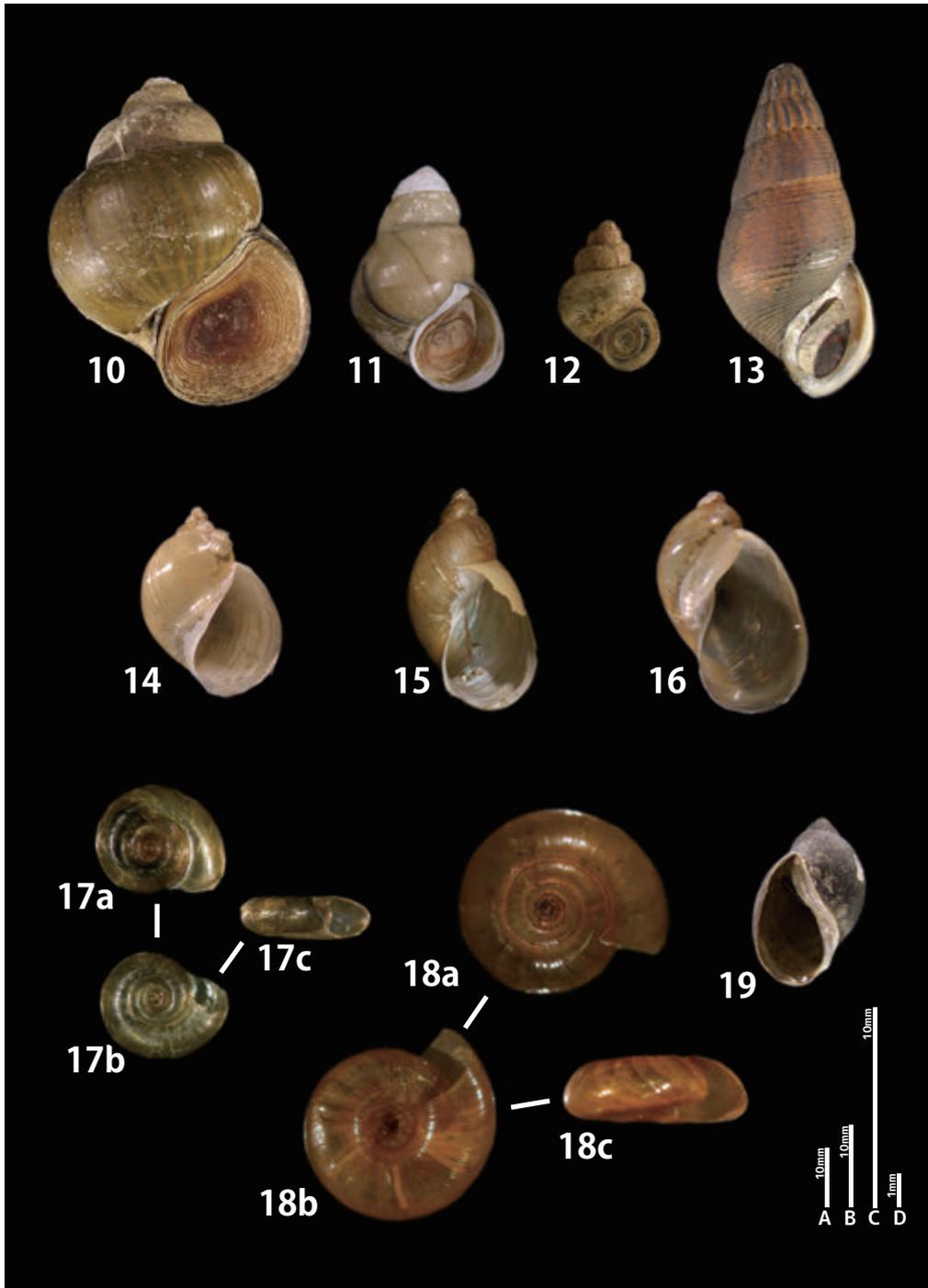
75. タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Müller, 1774)
 76. マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864
ドブシジミガイ科 Family SPHAERIDAE
 77. ドブシジミ *Sphaerium japonicum* Westerlund, 1883

図版I (Plate I)



1. ゴマオカタニシ; 2a-c. ヤマタニシ; 3a-c. アツブタガイ; 4a-c. ミジンヤマタニシ; 5a-c. ヤマクルマガイ; 6a-c. ピルスプリムシオイガイ; 7. キュウシュウゴマガイ; 8. ヒダリマキゴマガイ; 9. ホラアナミジンナ. ※スケール: A(1, 6a-c, 7, 8), B(4a-c, 9), C(2a-c), D(3a-c, 5a-c).

図版II (Plate II)



10. マルタニシ; 11. ヒメタニシ; 12. ヒメマルマメタニシ; 13. カワニナ; 14. ヒメモノアラガイ; 15. ハブタエモノアラガイ; 16. モノアラガイ; 17a-c. ヒラマキミズマイマイ; 18a-c. ヒラマキガイモドキ; 19. サカマキガイ. ※スケール: A(10), B(11, 13), C(14, 16, 19), D(12, 15, 17a-c, 18a-c).

図版III (Plate III)



20. ケシガイ; 21a-b. イボイボナメクジ; 22. ヒメオカモノアラガイ; 23. ナガオカモノアラガイ; 24. マルナタネガイ; 25a-c. ヒラドマルナタネガイ; 26. フトキセルガイモドキ; 27. スグヒダギセル; 28. カワモトギセル; 29. モリヤギセル; 30. ナミギセル; 31. シーボルトギセル; 32. オカチヨウジガイ; 33. ユウドオカチヨウジガイ; 34. オオクビキレガイ; 35. タワラガイ. ※スケール: A(20, 24, 25a-c), B(21a-b, 22, 23), C(26-31, 34), D(32), E(33, 35).

図版IV (Plate IV)



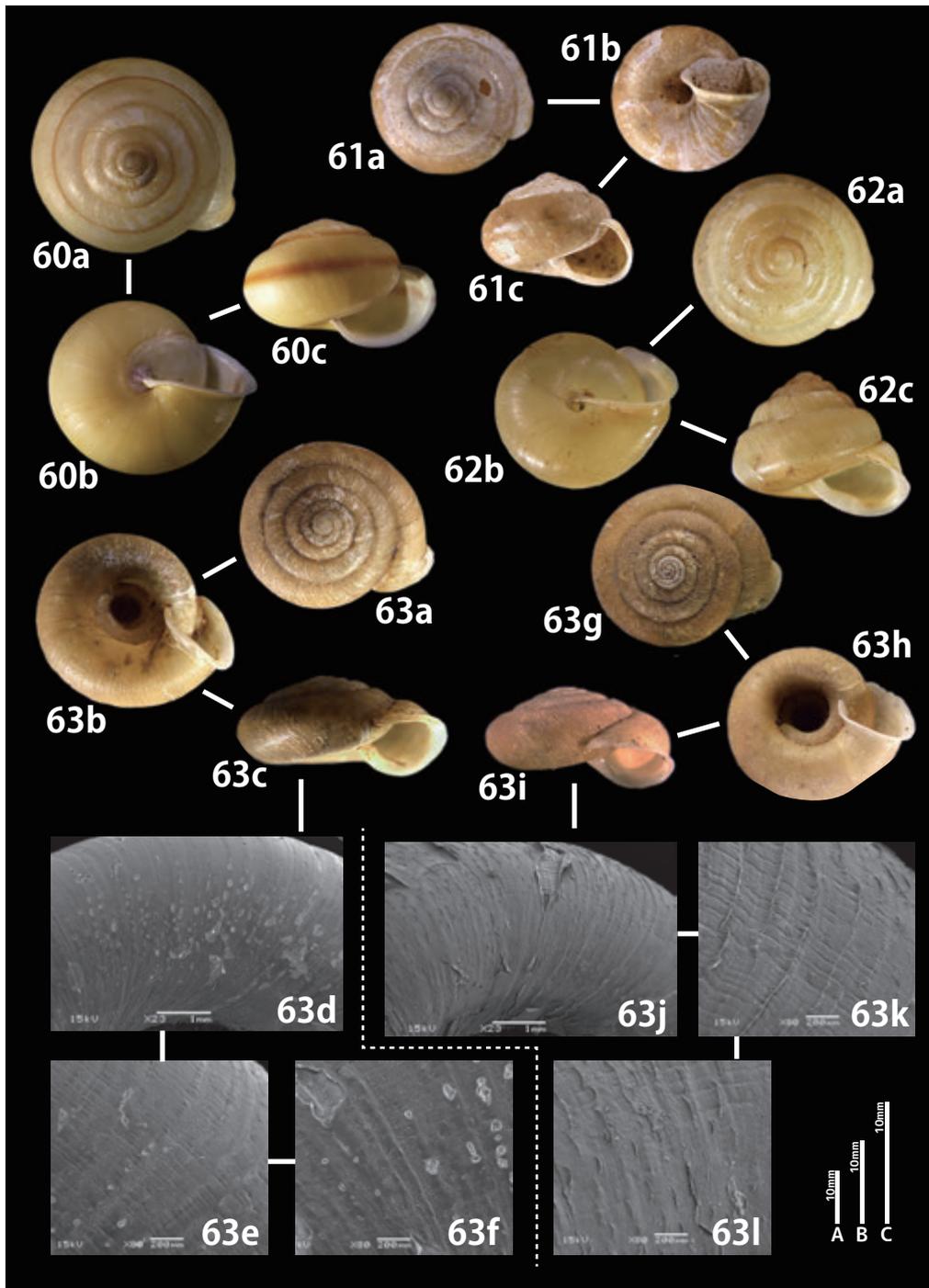
36a-c. ヒメナタネガイ; 37a-c. ハリマナタネガイ; 38a-c. ミジンナタネガイ; 41a-b. チャコウラナメクジ;
 43a-c. コハウガイ; 44a-c. ヒラベッコウガイ; 45a-c. カサキビ; 46. ツシマナガキビ; 47a-c. ヒメカサキビ;
 48a-c. ハリマキビ; 49a-c. ヒメハリマキビ; 50a-c. ヒゼンキビ; 51a-c. キビガイ; 52. コシタカシタラガイ.
 ※スケール: A(36a-c, 37a-c, 38a-c), B(41a-c, 43a-c), C(44a-c), D(45a-c, 46, 47a-c, 48a-c, 49a-c, 50a-c,
 51a-c, 52), E(33, 35).

図版V (Plate V)



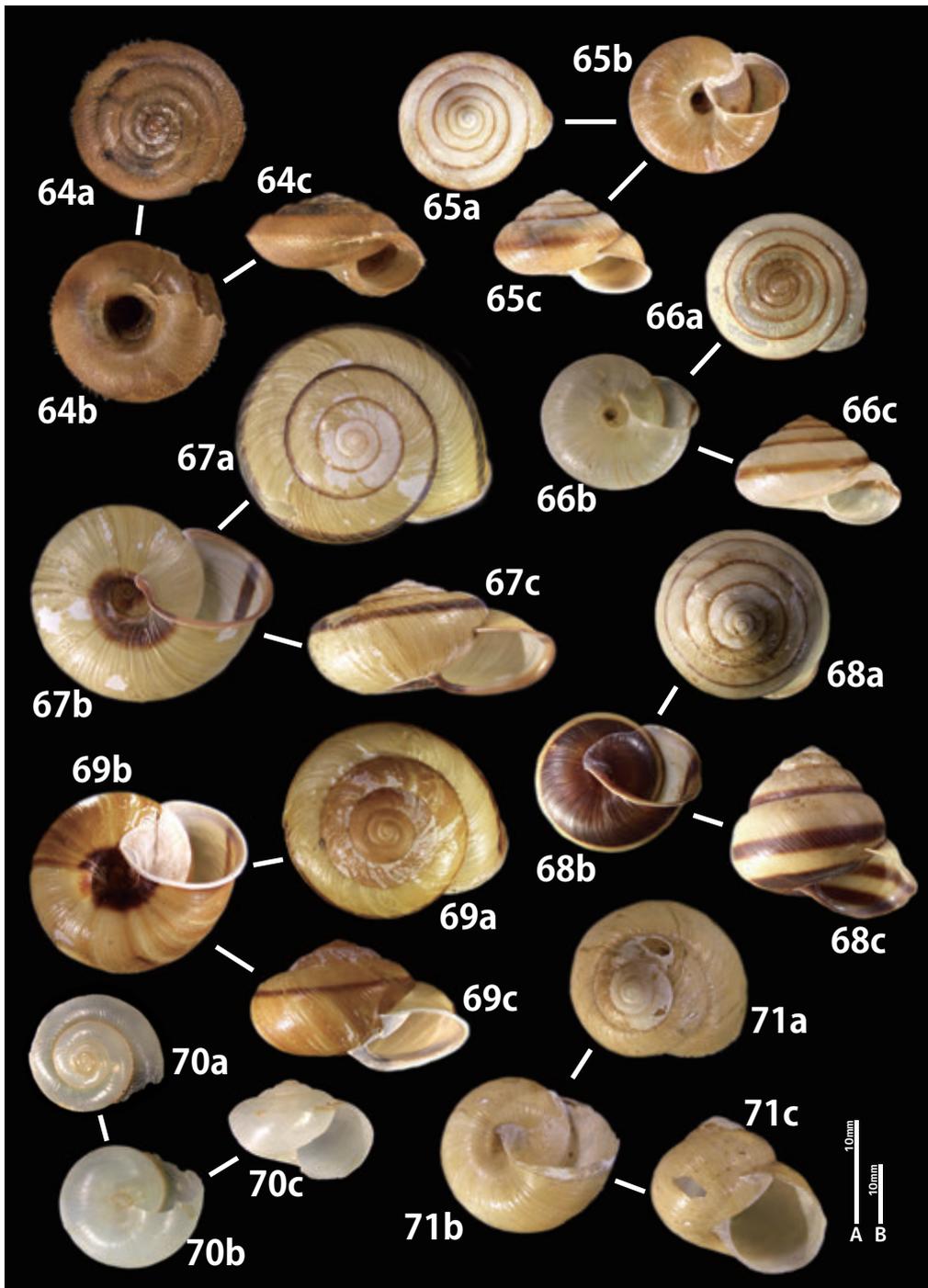
53a-c. ヒメベッコウ; 54a-c. ヤクシマヒメベッコウ; 55a. マルシタラガイ成貝, 55b-d. マルシタラガイ幼貝;
56a-c. ウスイロシタラガイ; 57a-c. ツノイロヒメベッコウ; 58a-c. ウラジロベッコウ; 59a-c. キヌツヤベッコウ.
※スケール: A(53a-c, 54a-c, 55b-d, 56a-c), B(55a), C(57a-c, 58a-c; 59a-c).

図版VI (Plate VI)



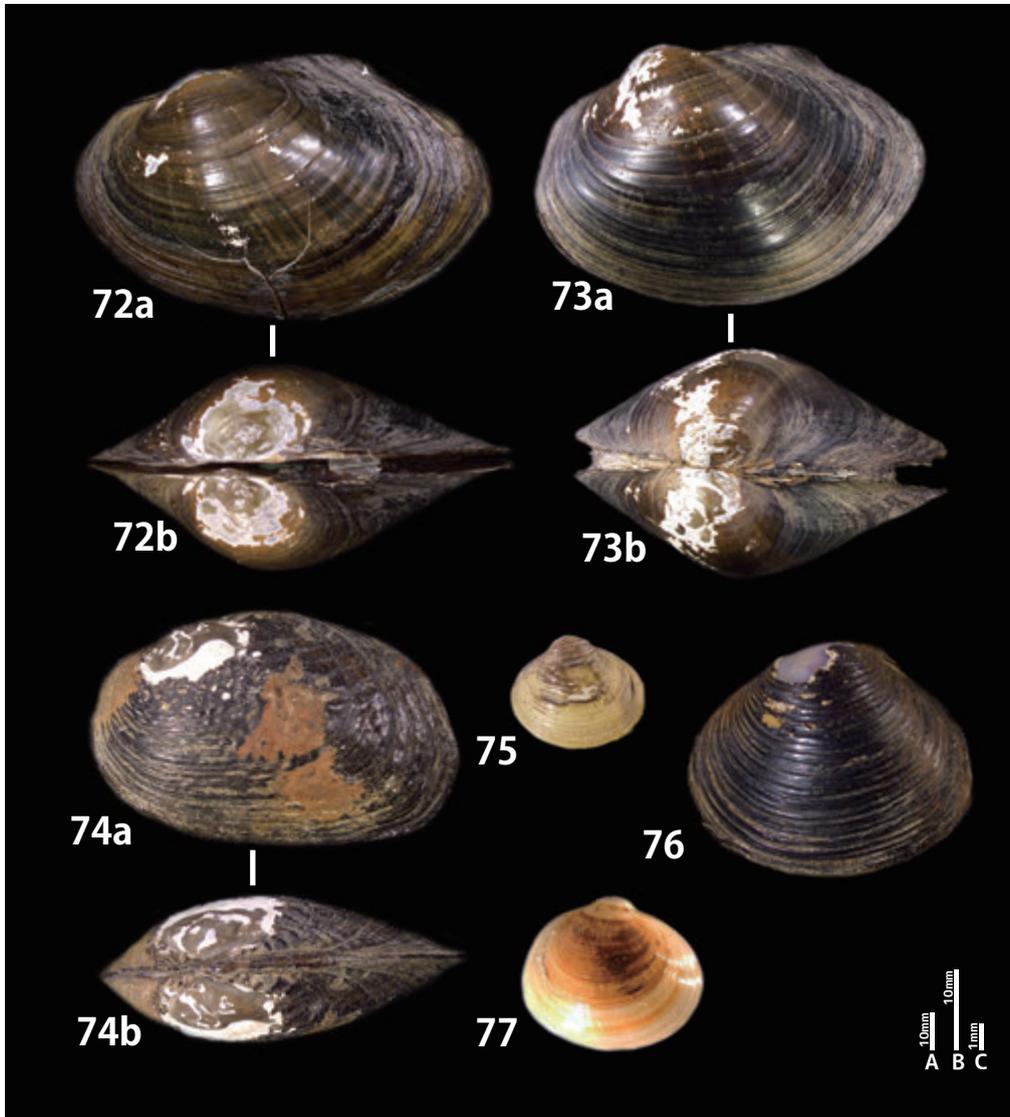
60a-c. コベソマイマイ; 61a-c. シメクチマイマイ; 62a-c. ニッポンマイマイ; 63a-f. タキカワオオベソマイマイ; 63g-l. タキカワオオベソマイマイ (フリーデルマイマイ様の個体); 63d-fと63j-lは走査型電子顕微鏡写真。 ※スケール: A(60a-c), B(61a-c, 62a-c), C(63a-c, 63g-i), 走査型電子顕微鏡写真は写真内スケール参照 (63d-f, 63j-l)。

図版VII (Plate VII)



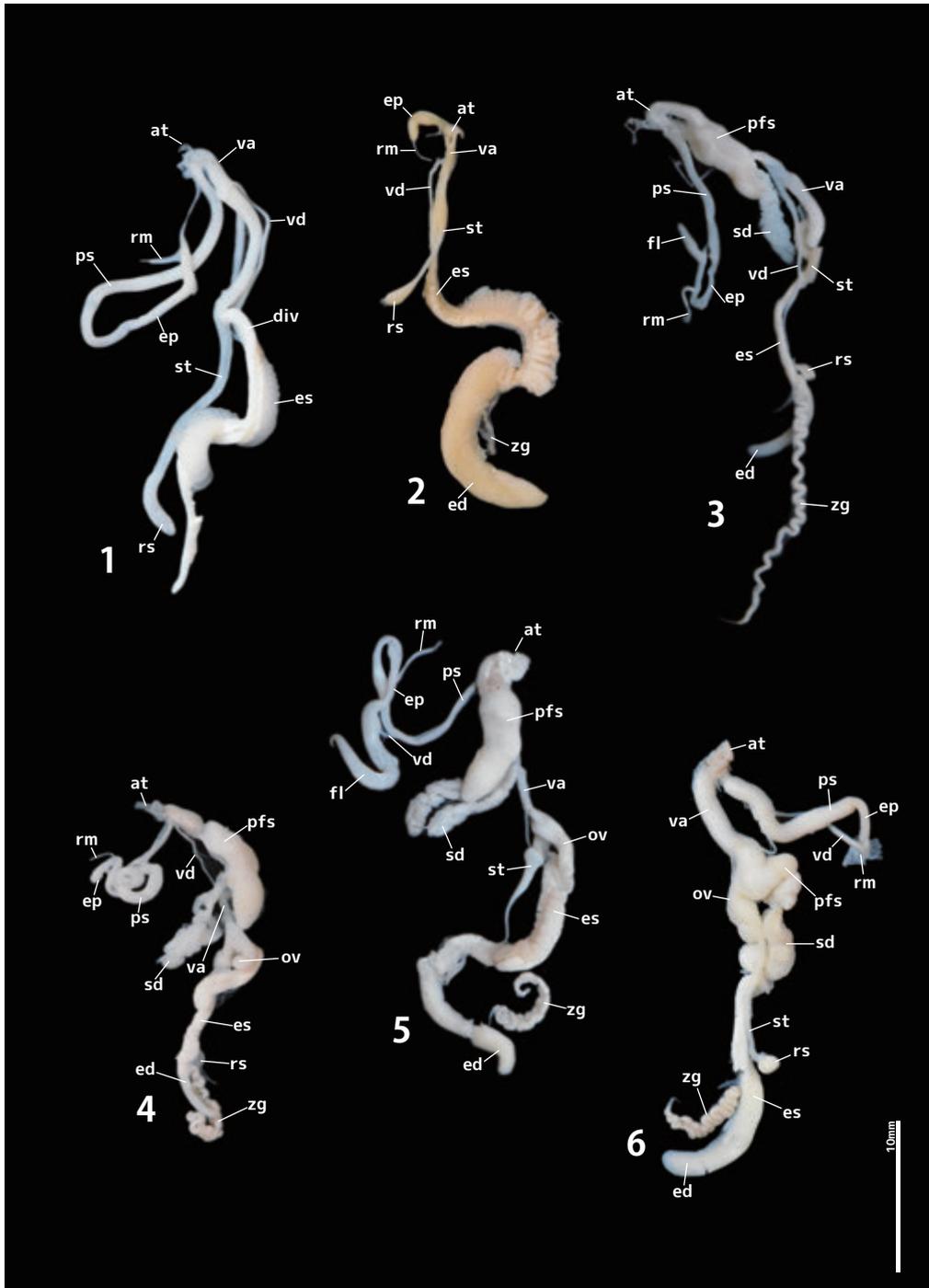
64a-c. チクヤケマイマイ; 65a-c. ダコスタマイマイ; 66a-c. リシケオトメマイマイ?; 67. ツクシマイマイ; 68. サンインマイマイ; 69. セトウチマイマイ; 70a-c. コハクオナジマイマイ; 71a-c. ウスカワマイマイ. ※ スケール: A(64a-c, 65a-c, 66a-c, 70a-c, 71a-c), B(67a-c, 68a-c, 69a-c).

図版VIII (Plate VIII)



72a-b. ヌマガイ; 73a-b. マルドブガイ; 74a-b. ニセマツカサガイ; 75. タイワンシジミ; 76. マシジミ; 77. ドブシジミ. ※スケール: A(72a-b, 73a-b), B(74a-b, 75, 76), C(77).

図版IX (Plate IX)



1. モリヤギセル; 2. オオクビレガイ; 3. タキカワオオベソマイマイ; 4. ダコスタマイマイ; 5. リシケオトメマイマイ?; 6. ウスカワマイマイ (略号: div=盲管, zg=両性管, ed=蛋白腺, es=輸精卵管, ov=輸卵管, vd=輸精管, fl=鞭状器, ep=陰基本体, rm=陰茎牽引筋, ps=陰茎鞘, pfs=矢囊, sd=粘液腺, va=膺, st=受精嚢部, rs=受精囊, at=生殖腔) .

図版X (Plate X)



1. ヤマタニシ; 2. アツブタガイ; 3. イボイボナメクジ; 4. フトキセルガイモドキ; 5. スグヒダギセル; 6. カワモトギセル; 7. モリヤギセル; 8. シーボルトギセル; 9. オカチョウジガイ; 10. オオクビキレガイ; 11. タワラガイ.

図版XI (Plate XI)



12. ナメクジ; 13. ヤマナメクジ; 14. ヒラベッコウガイ; 15. ツノイロヒメベッコウ; 16. ニッポンマイマイ; 17. チクヤケマイマイ; 18. ダコスタマイマイ; 19. リシケオトメマイマイ?; 20a-c. ツクシマイマイ (a: 無帯0000型, b: 有帯0234型, c: 有帯1234型); 21. セトウチマイマイ.